

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	服飾史	科目区分	一般教養科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・回(実日程)	1単位	18回
設置学科・コース	ファッション造形科、ファッション総合科	対象課程	基礎課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師	古賀由紀夫	

授業の概要(科目のねらい)

本授業は、古代文明の衣服から現代ファッションに至るまでの洋服の歴史を体系的に学び、時代背景と衣服の関係性を理解することを目的とする。素材・シルエット・装飾・技術革新の変遷を通して、社会や文化、価値観が服装に与えた影響を考察する。歴史的知識をデザイン発想やスタイリング提案に活かせる基礎力を養い、服飾専門学生としての視野と表現力を高めることをねらいとする。

到達目標・習得技術

古代から現代までの衣服の素材・形・構造の変遷を理解し、それぞれの時代背景と結びつけて説明できる力を身につけることを目標とする。習得した知識をもとに、デザイン発想や商品説明に具体性を持たせ、説得力ある提案ができる力を養う。また、時代考証を踏まえたスタイリング構成ができ、根拠を持って表現できる実践力の習得を目指す。

授業方法・形態

資料やテキストを用いた講座を中心に、古代から現代までの服飾史を体系的に学び、時代背景や社会・文化との関係を理解する。デザイン発想やスタイリング提案への応用を視野に入れた座学を中心とし、体験的学習は他授業と連携して補完する。

項目	授業計画・内容	授業時数
1	原始 なぜ衣服を着るのか。衣服の起源を取り上げ、気候・環境・社会構造と衣服の関係性を理解する	1.25時間
2	衣服の基本形と素材に着目し、「巻く・結ぶ・被る」といった原初的構造や毛皮・毛・絹・綿・麻など素材と文明。	1.25時間
3	古代 古代エジプト・メソポタミアの腰衣やロインクロス、	1.25時間
4	古代ギリシャ・ローマのペプロスやキトンなど「巻く衣服」の完成形を学習する。(民族衣装についてレポート)	2.5時間
5	中世 ビザンチン・ロマネスクのチュニック型上衣、袖と機能性。	1.25時間
6	ゴシックの上衣・下衣の分化を学ぶ。宗教と様式。	1.25時間
7	近世 ルネサンスの男女服の特徴、大袈裟な装飾。大きな衣服。下着の役割。	1.25時間
8	バロック期のフランス宮廷衣装。市民、宗教改革。	1.25時間
9	近代 ロココのフォルセット、ドレスとルール、マナーをし学ぶ。(マリーアントワネットについてのレポート)	2.5時間
10	フランス革命からナポレオン時代における市民服・軍服・古代回帰様式	1.25時間
11	市民革命以降に成立するドレス、ジャケット、パンツ、シャツなど現代服の原型を学ぶ。	1.25時間
12	世紀末文化と様式、デザインの多様化、既製服産業の成立を理解する。オートクチュールの出現。	1.25時間
13	現代 アールヌーボーとアールデコのデザイン様式	1.25時間
14	1930年代の新しい文化とアメリカの影響を考察する	1.25時間
15	アートとファッションの関係、とくにシュールレアリズムを通して芸術思想が服飾表現に与えた影響を学ぶ。	2.5時間
合計時数		22.5時間

終了成果物・修了試験・修了課題

レポート 期末テスト

評価方法・評価基準

課題レポート 1/3、筆記テスト 1/3、日常点 1/3

教科書・参考書・資料・文献

教科書 世界服飾史 深井晃子 美術出版社

担当教員の経歴・実務経歴

雑誌編集者として文化出版局にて、装苑、ハイファッションなどの編集業務に携わり、ニットデザイナー、手芸家としても東京コレクション、雑誌などに作品提供していた。

教員種別

講師

科目所属科長

ファッション造形科  
鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	素材学	科目区分	一般教養科目	
履修期間	後期	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・回(実日程)	1単位	20回
設置学科・コース	ファッション造形科、ファッション総合科	対象課程	基礎課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師	古賀由紀夫	

授業の概要(科目のねらい)

本授業では、アパレル製品を構成する「繊維・糸・布地」の基礎知識を体系的に学ぶ。天然繊維(綿・麻・毛・絹)や化学繊維(再生・半合成・合成)の分類と種類を理解し、それぞれの特性(吸湿性、保温性、強度、風合いなど)を比較検討する。さらに、繊維から糸、布地へと至る工程と名称を把握し、素材特性を踏まえた企画・デザイン・取り扱いができる力を養うことをねらいとする。

到達目標・習得技術

本授業の到達目標は、各種繊維・生地の特性を理解し、用途に応じた適切な取り扱い方法(裁断・縫製時の注意点、洗濯・保管方法など)を説明できることである。さらに、素材知識を製作に活かし品質向上につなげる力、販売時に特性を的確に伝える力、スタイリングにおいて機能性や風合いを踏まえた提案ができる実践力を習得することを目標とする。

授業方法・形態

教材やビジュアル資料を活かした講義を中心として天然繊維・化学繊維の分類や特性、糸・布地への工程など基礎知識を座学で体系的に学び、実物観察や体験的学習は他授業と連携して補完する。

項目	授業計画・内容	授業時数
1	アパレルの素材とは、アパレル素材の定義を理解し衣服を構成する素材の機能、役割と基本構造を理解する。	1.25時間
2	アパレルの素材としての繊維がファッション表現に与える影響を知り、流行などへの素材選びの重要性を理解する。	1.25時間
3	繊維から布へ。天然繊維(植物性、動物性)の種類と特性を学び、それぞれの違いを理解する。	1.25時間
4	化学繊維(再生、半合成、合成)分類と特徴を理解し、機能、用途を学ぶ。(素材の手触り見た目のレポート)	2.5時間
5	繊維から糸 糸の撚り、太さ、長さ、番手などの基礎知識を学び、糸の用途と構造を理解する。	1.25時間
6	糸から織物 織物の基本である三原組織(平織、綾織、朱子織)の構造と特徴を理解する。	1.25時間
7	糸から編物 編物の構造と特性を理解し、カットソー、ニット製品を理解する。	1.25時間
8	アパレル製品の取り扱い 洗濯、クリーニング、プレス、保管など適切な扱い方を学ぶ。(品質標示のレポート)	2.5時間
9	製品の構造 表地、裏地、芯地、その他の付属の種類と役割を理解する。	1.25時間
10	生地の名前、基本情報 ストライプ、チェックなどから、織柄、プリント柄の違いを学ぶ。先染め、後染め。	2.5時間
11	生地の仕上げ加工の種類と機能性や外観変化について理解する。デザイン性、製品加工など。	1.25時間
12	秋冬素材の特徴と保温、断熱の仕組みを学び、用途を考える。化学、発熱、熱交換。	1.25時間
13	織物、編物以外の素材、レースの歴史と手工芸、工業的機械生産の違いを知る。手法と置き換え。	1.25時間
14	織物、編物以外の素材、不織布、フェルトの構造と特徴を学び、用途と発展を知る。(不織布製品のレポート)	2.5時間
15	デニム、ジーンズの歴史と代表的な加工技術を知る。素材特性を考えてカスタマイズ、リメイクに活用する。	2.5時間
合計時数		25時間

終了成果物・修了試験・修了課題

レポート 期末テスト

評価方法・評価基準

課題レポート 1/3、筆記テスト 1/3、日常点 1/3

教科書・参考書・資料・文献

アパレル素材論 文化服装学院編

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
雑誌編集者として文化出版局にて、装苑、ハイファッションなどの編集業務に携わり、ニットデザイナー、手芸家としても東京コレクション、雑誌などに作品提供していた。	講師	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	業界人講話	科目区分	一般教養科目	
履修期間	特別講座	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・回(実日程)	1単位	
設置学科・コース	全学科	対象課程	基礎課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師	石川誠、花園和寿、鷺典子、伏見幸恵	

授業の概要(科目のねらい)

本授業はそれぞれの課程や専門技術の習得に資するタイミングで、各業界の第一線で活躍する著名な専門家・実務家を招き、最新の業界動向、キャリア形成、社会課題、実際の現場での経験などについて講話いただく特別講義である。学生は、実務家のリアルな言葉に触れることで、将来のキャリア形成に必要な視野を広げ、社会で求められる能力や姿勢を理解することを目的とする。

到達目標・習得技術

業界の構造・トレンド・課題について自分なりの考察をする機会として、実務的な視点から、学びとキャリア形成の重要性を理解する。講話内容をもとに、自らの今後の学習計画・進路選択を見直すことができる。積極的に質問や議論に参加する姿勢を身につける。

授業方法・形態

授業形態の基本方針としては在宅・課外学習を中心とした段階的演習型授業として運営するが、他授業の「キャリアデザイン」「業界研究」「産学連携」などの複数の授業と連動して、事前課題学習を進め、中間チェック、総括していく。準備段階から記録に関するまで、統括教員が学修進行を管理し、課題提示・提出・フィードバックを通じて、継続的な指導を行う。

項目	授業計画・内容	課外時数
1	学修の起点とする理解（「好き」と「専門」の違い整理）	3時間
2	興味関心の棚卸し（これまでの制作・学修・体験の振り返り、印象に残った出来事の抽出）	3時間
3	漠然とした興味を言語化した問いに変換	3時間
4	関心の焦点化（各自の関心とファッション業界の接続）	3時間
5	関心分野で活躍する人物・ブランド調査	3時間
6	仮説構築（ゲスト業界人について「なぜ今、関心が寄せられるか」「なぜ今、自分が関心を寄せるのか」）	3時間
7	準備・中核体験への接続（登壇者の経歴・思想分析）	3時間
8	疑問、問いの設計（関心を軸にした質問作成）	3時間
9	業界実務家による特別講話	2.5時間
10	再定義（振り返りと整理）現実の差異整理	3.5時間
11	新たな問いの抽出、関心	3時間
12	関心の再定義（より具体的・実践的な関心へ再構築）	3時間
13	キャリア構想、キャリアへの展開（成功へのルート多岐化）	3時間
14	学修計画への接続（制作・研究・インターンへの反映）	3時間
15	キャリア感の成長確認	3時間

終了成果物・修了試験・修了課題

講義後レポート(テーマ「講義の要点整理」「講師の話から得た学び」「今後のキャリアにどのように活かすか」)

評価方法・評価基準

評価項目と内容は、出席:1/3、レポート評価:1/3、聴講姿勢:1/3  
事前申告者においては、オンライン聴講による出席も可、レポート未提出は単位不認定(提出期限:講義日から1週間以内)

教科書・参考書・資料・文献

指定なし(講師から関連資料配布)

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
	基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	色彩学	科目区分	一般教養科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・回(実日程)	1単位	18回
設置学科・コース	ファッション総合科・ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師	堀川 彩里	

授業の概要(科目のねらい)

AFT色彩検定3級合格を目指し、公式テキストの理論を習得する。検定対策に加え、デザイナーや衣装製作の現場で不可欠な「実務直結の色彩力」を重視。正確な指示出しを可能にするPCCSによる色指定、体型補正や舞台映えを狙い通りに作る機能的な配色設計、トレンドカラーの構造的な理解、イメージに沿った論理的なカラーデザインを学習。感覚に頼らず「なぜその色なのか」を理論で提案・説明し、実際の制作物で着実に再現できるカラーコーディネート能力の定着を目指す。(検定日:11/8 ※希望者のみ)

到達目標・習得技術

- ・文部科学省後援AFT色彩検定3級の取得及び、習得した色彩知識を仕事の現場に活かすことができるようになる
- ・表現したいファッションイメージに合わせて、ロジックに基づいてカラーコーディネートの提案ができるようになる
- ・パーソナルカラー(人それぞれに合う色)の概要を理解し、デザイン、スタイリング、企画、販売などそれぞれの分野に役立つ知識を習得する(色彩応用編)

授業方法・形態

授業方法:オンライン  
形態:講義100%(チャットによる質疑応答も含む)

項目	授業計画・内容	授業時数
1	オリエンテーション:色彩の重要性について・色彩検定の概要	1. 25時間
2	導入基礎/色彩の基本を学ぶ:色の分類(無彩色・有彩色)と、色の三属性(色相・明度・彩度)の概念および構造を習得する。	1. 25時間
3	基礎/PCCSを学ぶ:色彩の成り立ちと体系的な色の捉え方を理解し、表示方法を習得。トーンマップ作成と提出。	2.5時間
4	基礎/色の心理的効果の習得:色の感情効果や象徴性など心理的影響を学び、色彩による情報伝達と演出効果の基礎知識を習得する。 (感情・象徴性)と視覚効果(対比・同化等)に関する基礎理論を学び、色彩による伝達・演出効果の基礎知識を身につける。	1. 25時間
5	基礎/色の視覚効果の習得:ファッションにおける色彩の対比と同化理論等を学び、PCCS配色カードによる実験演習を通じて視覚効果を習得する。	1. 25時間
6	基礎/PCCS配色技法の基礎の習得:PCCSの記号を用い、色彩設計の基礎となる配色技法を習得。 演習シート提出→個別にフィードバック	1. 25時間
7	応用/配色技法の応用展開:アクセント・セパレーション等の実践的活用を習得。	1. 25時間
8	応用/ファッションにおける配色効果を学ぶ、流行色の変遷と仕組みを学ぶ。	1. 25時間
9	実践/PCCSの配色理論を応用したトレンドカラーのスタイリングを演習シートに作成し、個別フィードバックを通じて配色構成力を高める。	1. 25時間
10	発展/イメージに合わせたファッションカラーコーディネート:カジュアルやエレガントなど8種類の配色イメージをイメージスケールで理解する。	1. 25時間
11	実践/イメージに合わせたファッションカラーコーディネートの実践:コラージュ制作→個別にフィードバック	1. 25時間
12	応用/混色理論とデジタル色彩の応用:混色の仕組みと、写真・SNSでのモニター画面等における身近な色彩の応用例を理解する。	1. 25時間
13	検定対策:全7項目の出題ポイント解説(光と色、PCCS、色彩調和、色彩心理、ファッションと色彩、インテリアと色彩、色名)、各項目別小テスト実施。	2.5時間
14	筆記試験(色彩検定模擬試験)	2.5時間
15	発展/パーソナルカラー概論と仕事での取り入れ方	1. 25時間
合計時数		22.5時間

終了成果物・修了試験・修了課題

終了成果物:色彩検定試験 修了試験:色彩検定3級模擬テスト  
修了課題:イメージに合わせたファッションカラーコーディネートのコラージュ(イメージ、コンセプト、世界観、ビジュアル、カラーコーディネート・素材・スタイリング説明)

評価方法・評価基準

課題評価(PCCSトーンマップ作成、配色演習、コラージュ作成、色彩検定小テスト、色彩検定模擬テスト) 1/3、筆記試験 1/3、日常点(授業参加・態度・出席率) 1/3。課題の評価点やテストの正答率が一定以下(59点以下)であれば自動的に不合格とする場合あり。  
なお、成績評価が60点未満の場合は補習対象となる。

教科書・参考書・資料・文献

・『AFT色彩検定公式テキスト3級編』内閣府認定公益社団法人色彩検定協会 著  
・新配色カード 199a・新配色カード199用演習台紙 日本色研事業株式会社 ・オリジナル模擬テスト

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
文部科学省後援AFT色彩検定協会認定色彩講師として、色彩検定やパーソナルカラー検定対策を行う他、ファッション・美容・映像等各分野の企業や学校の色彩講義、カラーセミナー、パーソナルカラー診断を20年以上担当。色彩、パーソナルカラーに関する知見を豊富にもつ。	講師	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	就職ガイダンス	科目区分	一般教養科目	
履修期間	後期	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・回(実日程)	2単位	16回
設置学科・コース	ファッション総合科・ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	花園 和年	授業担当・外部講師	なし	

授業の概要(科目のねらい)

- 1、業界研究からスタートし、ファッション繊維業界全体に対する理解を深め、将来の職業選択の選択肢を増やす
- 2、自己分析を通して、自分にとっての適職は何かを探索 するためにジョブカードの作成、活用法を学ぶ
- 3、敬語、マナー、等、社会人としての基礎知識を身に着け、面接、選考対策のみならず就職後にも継続して活用できる動作、知識の反復の徹底
- 4、第1次選考に必修になりつつあるグループディスカッション対策 それを通じて会議の推進法、プレゼンテーションの仕方を身に着け、就活のみならず就職後役に立つ能力の取得を目指す

キャリア

- 1、業界研究を通じ、服ができるまでの全工程、関連産業への理解を深め、職業選択時に有用に活用できる知識の習得
- 2、ジョブカード作成を中心とした自己分析を通じ、適職探し、エントリーシート作成に有効活用
- 3、敬語、マナー、SPI対策
- 4、グループディスカッション対策

授業方法・形態

講義＋演習(グループワーク、ロールプレイング含む) ジョブカードを含む各種課題作成

項目	授業計画・内容	授業時数
1	2028卒用就活スケジュール解説 働き方解説(働くとは?)	2.5時間
2	業界研究:川上から川中まで:製糸業からテキスタイルまでの各業界解説	2.5時間
3	業界研究:川中から川下まで:専門商社、小売業、セレクトショップ、EC	2.5時間
4	ジョブカード 解説 作成 1 自己分析を通じ、自分の適職を探す	2.5時間
5	ジョブカード 解説 作成 2 ジョブカードの完成とES,履歴書との連動	2.5時間
6	敬語・マナー対策 1 就職活動時に必要とされる敬語、ビジネスマナー	2.5時間
7	敬語・マナー対策 2 電話対応含め社会人としての基礎;の反復練習	2.5時間
8	SPI 対策 1 言語 国語を中心とした語句の意味、読解、文章の要旨	2.5時間
9	SPI 対策 2 非言語 数学 確率、推論、速度、利益率、集合	2.5時間
10	SPI対策 3 一般常識問題 時事問題	2.5時間
11	選考対策解説(面接、エントリーシート、履歴書)	2.5時間
12	グループディスカッション 1 会議の本質の理解(役割分担、各役割の推進方法)	2.5時間
13	グループディスカッション 2 会議のまとめ方、発表練習、評価	2.5時間
14	期末試験	2.5時間
15	試験内容解説、面談	5時間
合計時数		40時間

終了成果物・修了試験・修了課題

修了試験(敬語、一般常識、ビジネスマナー、自己PR) グループディスカッション 日常課題

評価方法・評価基準

日常点(授業参加、態度、出席率)1/3、小課題＋プレゼンテーションの平均評価1/3、修了試験1/3  
出席率一定以下(3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり

教科書・参考書・資料・文献

担当教員による、28卒用最新就職情報の毎回の提供 企業よりの提供資料の有効活用  
「就職活動1冊目の教科書」KADOKAWA

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
明治大学卒 テキスタイル企画、MD12年(ニット、合織、プリント) 海外製品バイヤー20年	基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パターンナーコースシラバス

授業科目名	情報処理基礎演習 I	科目区分	一般教養科目	
履修期間	後期	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・回(実日程)	2単位	20回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	福嶋 哲平	授業担当・外部講師	豊泉 彩乃	

授業の概要(科目のねらい)

将来的に必要な情報処理の基礎能力を身につけることを目的とする。  
Microsoft Office (PowerPoint、Excel、Word)を中心に、情報の整理・加工・表現・伝達の基本的な方法を学習し、レポート作成、資料作成、簡単なデータ処理を適切に行える能力を養う。また、複数のオフィスソフトを連携させた作業を通じて、他授業と連動した情報、プレゼンテーションツール制作力を身につける。

到達目標・習得技術

図案構成の基本を理解し、シルクスクリーン製版・プリントの基本技法を習得。  
染色手法(抜染、捺染、防染など)、用具の基礎知識と作業工程を身につける。  
自らのコンセプトに基づいたオリジナルテキストスタイルを制作。制作過程を振り返り、デザイン意図を言語化して発展性を研究考慮したプレゼンテーション力。

授業方法・形態

PowerPointを用いて、目的に応じた資料を作成、複数のOfficeソフトを連携させ、情報を統合した成果物を作成できる  
Excelを用いて、基本的な表作成・計算・グラフ化、Wordを用いて、体裁の整った文書(レポート)を作成できる  
情報処理の基本的な考え方(正確性・再現性・可読性)を理解

項目	授業計画・内容	授業時数
1	オリエンテーション 「PC操作の基本」 情報処理の基礎、Officeソフトの役割	2.5時間
2	PowerPoint①: プレゼンテーションの構成、スライド作成の基本	2.5時間
3	PowerPoint②: 図表・画像の挿入、視覚的表現の工夫	2.5時間
4	PowerPoint③: 発表資料の完成、簡単な発表演習	5時間
5	Excel①: 表計算の基礎、データ入力、基本的な計算	2.5時間
6	Excel②: 相対参照・絶対参照、簡単な関数(SUM、AVERAGE等)	2.5時間
7	Excel③: グラフ作成、データの可視化	2.5時間
8	Excel④: データ整理と活用(並べ替え、簡単な分析)	5時間
9	Word①: 文書作成の基礎、書式設定、段落構成	2.5時間
10	Word②: 表・図の挿入、レポート形式の理解	2.5時間
11	Word③: 見出し設定、目次作成、文書の完成	5時間
12	Office連携①: Excelで作成した表・グラフをWordに活用	5時間
13	Office連携②: Word・Excelの内容をPowerPointに反映	2.5時間
14	3ソフトを連携した課題制作	5時間
15	授業全体の振り返り、終了試験	2.5時間
合計時数		50時間

終了成果物・修了試験・修了課題

授業内課題・演習成果物

評価方法・評価基準

授業への取り組み・出席状況(日常点): 1/3  
実習課題評価: 1/3  
筆記試験: 1/3

教科書・参考書・資料・文献

『Microsoft PowerPoint 基礎』、『Microsoft Excel 基礎』、『Microsoft Word 基礎』 FOM出版

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
株式会社アスキー、株式会社内外出版社にて15年以上の実務を担当し、PCスキルの知見を豊富に持つ。	専任教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	ファッションビジネス概論	科目区分	職業専門科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・回(実日程)	2単位	18回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	石川誠	授業担当・外部講師		

授業の概要(科目のねらい)

「ファッションビジネス能力検定3級(ファッションビジネス知識)」合格を目標に、ビジネス科学生がアパレル業界の基礎知識を体系的に習得することを目的とする。検定範囲(業界構造・流通・販売・MD・マーケティングなど)を重点的に学習し、出題傾向を押さえた演習を通じて、検定合格力と実務基礎力を同時に養うこと

到達目標・習得技術

- ・ファッションビジネス能力検定3級の出題範囲を網羅し、過去問正答率80%以上を達成できる。
- ・アパレル業界の構造(生産・流通・小売)と各職種(MD・バイヤー・VMD)の役割を正確に説明できる。
- ・消費者動向・トレンドサイクルとビジネス戦略の関連性を理解し、事例で説明できる。
- ・検定形式(四択問題・用語記述)の解法パターンを習得し、本番で時間内に解答できる。

授業方法・形態

過去問解説講義→用語暗記・計算問題演習→模擬試験実施&復習。  
 評価: 模擬試験平均点(60%)、小テスト(20%)、提出物(20%)。  
 目標: 検定合格率90%以上、基礎知識の定着。

項目	授業計画・内容	授業時数
1	ガイダンス/検定概要と出題傾向	2.5時間
2	ファッション業界の全体構造:市場規模、トレンドの捉え方	2.5時間
3	アパレル企業組織と職種①	2.5時間
4	アパレル企業組織と職種②	2.5時間
5	マーチャンダイジン 商品知識①:素材と品質	2.5時間
6	マーチャンダイジング 商品知識②:仕様と縫製	2.5時間
7	流通①:卸売と小売の仕組み	2.5時間
8	流通②:物流と在庫管理	2.5時間
9	セールス 販売促進①:販促の種類	2.5時間
10	セールス 販売促進②:顧客管理	2.5時間
11	小テスト①/用語確認演習	5時間
12	マーケティングの基礎 消費者と市場①:購買行動	2.5時間
13	マーケティングの基礎 消費者と市場②:市場セグメント	2.5時間
14	法規①:消費者保護法規	5時間
15	前期まとめ/模擬テスト①	5時間
合計時数		45時間

終了成果物・修了試験・修了課題

日本ファッション教育振興協会主催 ファッションビジネス能力検定3級(ビジネス知識)合格

評価方法・評価基準

- ・出欠率:1/3
- ・課題提出(ワークレポート、プレゼンテーション等):1/3
- ・終了テスト:1/3

教科書・参考書・資料・文献

日本ファッション教育振興協会発行 ファッションビジネス2級 新版、ファッションビジネス3級 新版、及過去問題集

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
国内デザイナーブランドへ総合職入社。退職後、渡英、ロンドン・カレッジ・オブ・ファッションにてファッションマーケティング/プロモーションを専攻。小売/卸営業、バイヤー、マーチャンダイザー、商品部長/営業部長を歴任。□	基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	英会話	科目区分	一般教養科目	
履修期間	後期	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・回(実日程)	1単位	16回
設置学科・コース	全学科	対象課程	総合科基礎課程 造形科専門課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師	梨本 雅子	

授業の概要(科目のねらい)

英語による基本的なコミュニケーション能力の向上を目的とし、日常生活で使用される初歩的な英会話表現の習得から開始。授業前半では挨拶や自己紹介などの基本的な会話を通してリスニング力と発話力を養い、英語に対する心理的障壁を低減する。中盤以降は、ファッション分野に関連する語彙や表現を導入し、服飾業界や日常生活において英語でコミュニケーションを行う基礎能力を育成する。最終段階では、店舗接客やブランド紹介などを想定した実践的会話活動を行い、学生が自分の専門分野と英語を結び付けて表現できる力を養う。

到達目標・習得技術

- 1.日常生活で使用される基本的な英会話表現を理解し、簡単な会話ができる。
- 2.ファッションに関する基本語彙(衣服・素材・色・スタイルなど)を理解できる。
- 3.ファッション関連の簡単な内容について英語で説明・質問ができる。
- 4.英語による聞き取り能力(Listening)を向上させ、基本的な情報を理解できる。

授業方法・形態

英語によるコミュニケーション能力の向上を目的として、リスニングおよびスピーキング活動を中心に授業を展開する。前半では日常英会話に関する基本表現を学習し、中盤以降は、衣服・素材・色彩・デザインなどファッション分野に関連する語彙を取り入れ、専門分野と英語を結び付けた表現力を養う。授業ではリスニング教材や会話例を活用し、聞き取り活動、ペアワーク、ロールプレイ、簡単なプレゼンテーションなどの活動を通して、実践的な英語運用能力の向上を図る。

項目	授業計画・内容	授業時数
1	授業内容と基礎英会話の導入:英語による簡単な挨拶表現や自己紹介の基本表現	1.25時間
2	自己紹介と日常会話表現:ペアワークを通して会話練習	1.25時間
3	日常生活の会話:短い会話を聞き取り、その内容を理解(リスニング)	1.25時間
4	ファッション英語への導入:買い物の場面を想定した値段の尋ね方や商品の説明などの基本的表現	1.25時間
5	ファッション業界の基礎語彙:衣服に関する基本語彙を学習	1.25時間
6	ファッション業界の基礎語彙の発展:素材、デザインの基本語彙を学習	1.25時間
7	ファッション業界の基礎語彙の応用:人物の服装やスタイルについて英語で説明する表現を学習	1.25時間
8	ファッション業界の基礎語彙の活用:専門分野への理解を深めながら英語での表現力を強化する中間チェック	1.25時間
9	実務ベース英会話:接客英会話(接客を想定した基本的な英会話)	1.25時間
10	発展実務英会話:ポイント訴求応用(商品説明とおすすめ表現)	1.25時間
11	期末テスト振り返りと解説・Amazing Earth Factsなど世界の基本知識	1.25時間
12	会話機会の創出:簡単なグループディスカッション	1.25時間
13	文章理解、語彙力強化:海外のファッション文化をテーマのニュース解読	1.25時間
14	総合演習:日常英会話とファッション英語を組み合わせたロールプレイ	1.25時間
15	まとめ総括:筆記試験	1.25時間
合計時数		20 時間

終了成果物・修了試験・修了課題

授業内での会話演習への参加  
ファッション関連語彙のミニテスト  
ファッションブランドまたはスタイル紹介の簡単な英語プレゼンテーション  
授業内でのリスニング理解課題

評価方法・評価基準

授業参加姿勢(日常点) 1/3、ルーブリック評価表をもとにした学習成果 1/3、終了テスト 1/3

教科書・参考書・資料・文献

オリジナルPowerPoint資料・課題  
Merriam-Webster's Visual Dictionary

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
ISSEI MIYAKE/パリコレ衣装制作アシスタント・株式会社ワールド オリジナルブランドデザイナー 舞台衣装デザイン及び製作・アパレルブランド総合プロデューサー・アパレルグラフィックデザイナー TFACグラフィックデザイン及びビジネス関連授業担当・現在アメリカロサンゼルス在住	講師	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	キャリアデザイン	科目区分	一般教養科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・回(実日程)	2単位	16回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	専門課程・応用課程	
教員	花園 和年	授業担当・外部講師	なし	

授業の概要(科目のねらい)

就職活動のために必要なマナー、知識の習得。業界理解、企業理解のためにも企業説明会の校内開催を中心として企業と学生の接触の場を増やすことにより、企業選択の機会を増やすとともに、選考対策の場としても活用。就職後、5年先、10年先のキャリアプラン作成の基礎となるキャリアデザインシートの作成。就職活動を前提としながら、社会人としてのキャリア設計を長期的に考え、将来を見据えるコンパスの作成

キャリア

- 1、自己分析 エントリーシート、履歴書作成 内容面談
- 2、面接、グループディスカッション対策
- 3、敬語、マナー、SPI対策
- 4、キャリアデザインシート作成

授業方法・形態

講義＋演習(グループワーク、ロールプレイング含む)

項目	授業計画・内容	授業時数
1	本年の就職活動状況解説・企業紹介	2.5時間
2	エントリーシート・履歴書作成 1 自己PR,長所短所の記入(自己分析に基づく、自己分析指導)	2.5時間
3	エントリーシート・履歴書作成 2 志望動機	2.5時間
4	エントリーシート解説・面談	2.5時間
5	企業説明会① 会社説明、職業人のプロたる企業人との接触による自己啓発、採用担当からの就職指導	2.5時間
6	グループディスカッション 1 チームを変えながら複数回練習、会議、プレゼンテーションの学習	2.5時間
7	グループディスカッション 2 様々な企業で実施されたディスカッションテーマに挑戦・発表・講評	2.5時間
8	企業説明会② 会社説明、企業人事担当による就活指導	2.5時間
9	敬語・マナー習得 1 敬語、訪問時、面接、電話対応、就職後の対応含む	2.5時間
10	敬語・マナー習得 2 ビジネスマナー、社会人常識、会議、商談対応	2.5時間
11	SPI対策 言語・非言語・一般常識	2.5時間
12	面接練習 グループ面接対策 個人面接対策	2.5時間
13	キャリアデザインシート作成 現状分析 5年後、10年後を見据えたキャリアプラン作成	5時間
14	期末試験	2.5時間
15	試験内容解説、面談	2.5時間
合計時数		40時間

終了成果物・修了試験・修了課題

修了試験(敬語、一般常識、キャリアデザイン) エントリーシート キャリアデザインシート

評価方法・評価基準

日常点(授業参加、態度、出席率)1/3 小課題＋プレゼンテーションの平均評価1/3、修了試験1/3  
出席率一定以下(3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり

教科書・参考書・資料・文献

担当教員による、27卒用最新就職情報の毎回の提供 企業よりの提供資料の有効活用 キャリアデザインシート使用  
「自立へのキャリアデザイン」且まゆみ著

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
明治大学卒 テキスタイル企画、MD12年(ニット、合織、プリント) 海外製品バイヤー20年	基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	ソーシャルメディアマーケティング	科目区分	一般教養科目	
履修期間	後期	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・回(実日程)	1単位	20回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	専門課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師	廣瀬龍也・斎藤美空	
授業の概要(科目のねらい)				
<p>Instagram、TikTokの特性と活用方法を理解し、服飾業界における情報発信、集客、販売促進に活かす力を養う。また、SNS上でコンテンツを企画・制作・発信し、その反応を分析して改善につなげる一連の流れを学ぶことで、ブランドや商品の魅力を適切に伝える実践力を身につける。</p> <p>さらに、マーケティングの基礎理解を深め、服飾分野においてブランドの認知拡大から販売促進までを総合的に考え、提案できる力を養う。</p>				
到達目標・習得技術				
<p>服飾業界において、SNSの企画・運用担当者として基礎的な実務対応ができるレベルの知識と技術を身につける。具体的には、SNSアカウントの基礎的な運用方法を理解し、集客、ブランディング、販促の基礎知識を習得する。また、自ら設定したブランドや商品をSNS上で効果的に発信し、分析と改善を重ねながら、マーケティング視点をもって提案・発信できる力を養う。加えて、服飾業界で求められる視覚表現力、企画力、発信力、分析力、職業倫理を総合的に身につける。</p>				
授業方法・形態				
<p>演習では、服飾業界におけるSNS運用担当者・スタイリスト・ブランド発信担当者として必要な視点を身につけるため、衣服・スタイリング・ブランドイメージを他者に伝えるための企画、撮影、編集、文章作成、投稿分析を行う。</p> <p>指導テクニック: 講義、事例分析、実演、個別指導、講評、質疑応答作業形態: 個人作業、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション</p>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	SNSを活用したブランド発信の基礎を理解し、服飾業界において必要なブランドイメージの作り方や見せ方を習得する。			1.25時間
2	Instagramの基本機能と特性を理解し、服飾分野における効果的な情報発信方法と見せ方を習得する。			1.25時間
3	発信目的やターゲットを整理し、ブランドや商品の魅力を伝えるための企画立案力と構成力を習得する。			1.25時間
4	服飾アイテムやスタイリングを魅力的に見せるための撮影方法を学び、視覚的に伝える表現力を習得する。			1.25時間
5	SNS発信用動画の基礎編集技術を学び、ブランドや商品の魅力を短時間で伝える編集力を習得する。			1.25時間
6	投稿後の反応や数値をもとに、発信内容の改善点を見つけ、次の施策に活かす分析力を習得する。			2.5時間
7	TikTokの基本機能と拡散特性を理解し、服飾業界における動画発信の活用方法を習得する。			1.25時間
8	SNS運用に必要なモラルやルール、著作権・肖像権・炎上防止などの基礎知識を理解し、適切に活用する力を習得する。			1.25時間
9	商品やブランドの魅力を的確に伝えるためのPR視点を学び、訴求力のある発信方法を習得する。			1.25時間
10	発信内容を具体化し、実際のSNS運用や販売促進につなげるための企画提案力を習得する。			2.5時間
11	企画意図に沿って撮影を行い、ターゲットに伝わるビジュアル表現力を高める。			5時間
12	撮影素材を整理・編集し、媒体特性に合わせて見やすく伝わりやすいコンテンツ制作力を習得する。			1.25時間
13	制作・発信した内容を振り返り、改善提案ができる力と、実務につながるマーケティング視点を習得する。			1.25時間
14	授業を通して学んだSNS運用、ブランディング、企画、撮影、編集、分析、モラルに関する知識と理解を総括する。			1.25時間
15	試験結果の振り返りを通して、自身の理解度や課題を確認し、今後の学習や実務への活用につなげる。			1.25時間
合計時数				25時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
<p>ブランディング設計シート、Instagram運用企画書、投稿企画書、撮影構成シート、動画編集データ、分析レポート、TikTok企画書、SNSモラル確認シート、PR企画書、最終成果物「SNSマーケティングポートフォリオ」、修了試験: 筆記試験。</p>				
評価方法・評価基準				
<p>授業態度、SNSの実績、各コンテンツのクオリティやテストで採点する。日常点(授業参加・態度・出席率)1/3、課題(企画書、制作したコンテンツ作品)1/3、終了試験1/3</p>				
教科書・参考書・資料・文献				
<p>『SNSマーケティング7つの鉄則』日経BP 『Instagram運用の教科書』</p>				
担当教員の経歴・実務経歴		教員種別	科目所属科長	
アパレルブランド等のSNSマーケターとして活動中。			ファッション造形科 鷺典子	

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	体育Ⅰ・Ⅱ	科目区分	一般教養科目	
履修期間	特別講座(年間スケジュールによる)	履修要件	なし	
必修・選択	選択	単位数・(実日程)	1単位(実日程)	2回
設置コース	全学科	対象課程	全課程	
教員	実行委員教職員	授業担当・外部講師	なし	
授業の概要、科目のねらい				
<p>本授業は、学生主体のスポーツイベント(運動会等)を通じて、体力向上とともにコミュニケーション能力や協働性を育むことを目的とする。(種目はリレー、綱引き、大縄跳びなど。学生は当日の競技参加に加え、事前準備や後日の振り返りレポートの作成を行う)</p>				
到達目標・習得技術				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームでの協働を通じ、コミュニケーション力とリーダーシップを育成する</li> <li>・身体活動を通じて健康的な生活習慣の重要性を理解する</li> <li>・イベント企画・運営に関わる体験から、主体性・責任感を養う</li> </ul>				
授業方法・形態				
『チームビルディング研修』体験型特別授業 本科目における事前準備期間の学修は、学生による組織的活動を中心とするが、教員の指導・管理のもとで計画的に実施される。教員は実行委員会を随時召集し、活動計画の確認、進捗管理、安全配慮に関する指導を行い、学生の活動が教育目標に沿って適切に進行するよう統括する。これにより、時間割外での活動を含めつつも、正課授業としての指導性、双方向性、評価性を確保している。				
回	授業計画・内容			課外時数
1	ガイダンス／運動体育科目としての位置づけ(心身成長と組織形成)			3時間
2	身体理解と他者認識(心身身体能力、集団における多様性理解)			3時間
3	参加関与と役割意識(実行委員会編成)			3時間
4	コミュニケーション(チーム編成・信頼関係構築)			3時間
5	スポーツイベント企画立案(心身負荷と安全性配慮した競技設定)			3時間
6	運動会企画立案(自立主体性と競技種目バランス、組織運用)			3時間
7	調整力形成(意見調整・合意形成)			3時間
8	事前準備(用具・進行確認)			3時間
9	スポーツイベント実施(競技参加)			3時間
10	身体的負荷・心理的反応の振り返り			3時間
11	改善計画策定(発展・反省会)			3時間
12	運動会事前準備(心身のセルフマネジメント)			3時間
13	運動会実施(競技参加)			5時間
14	健康意識の定着(心身成長の振り返り)			2時間
15	今後の学生生活への活用(振り返りレポート)			2時間
合計時数				45時間
課題成果物・修了試験・修了課題				
実行委員会議事録 振り返りレポート				
評価方法・評価基準				
授業・行事への参加態度:1/3、組織活動・役割遂行:1/3、振り返りレポート:1/3 無断欠席は単位不認定(やむを得ない場合は別課題による補填) レポート未提出は単位不認定				
教科書・参考書・資料・文献				
スポーツ・レクリエーション事典 著:日本レクリエーション協会				
担当教員の経歴・実務経歴				
				ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	ドレーピング I	科目区分	職業専門科目	
履修期間	前期	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	1単位	17回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	中島由紀子	授業担当・外部講師		

授業の概要(科目のねらい)

各寸法をもとに行う平面製図ではなく、立体ボディーを使用して実際の布(シーチング)をあて、組み立て型紙を作り出す、立体裁断という技法を使い型紙作りをおこなう。

到達目標・習得技術

- ・布(シーチング)の地の目直しからはじめ、布の扱い方、ピンの打ち方を学ぶ。
- ・実際のボディーのフォルムに合わせて、ダーツの取り方を学ぶ。
- ・デザイン画に合わせて、美しいラインの見極めをおこない、デザインラインを作り表現していく。
- ・最終的には型紙をつくる。

授業方法・形態

ボディーに布(平面)をあてながら、身体フォルムに合わせて立体にしていく過程を学びながら、人体の凹凸に合わせてダーツをとることにより、ダーツの意味を理解していき、その後トレースをおこない、型紙をつくる。

項目	授業計画・内容	授業時数
1	シーチング地の目直し(生地縦地の目、横地の目を正確に合わせるアイロンのかけ方の習得)	5時間
2	「前原型1」(前身頃にあるバストに対してサイドダーツ、ウェストに対してのダーツの習得)	2.5時間
3	「後原型1」(後身頃にある肩甲骨に対して肩ダーツ、ウェストに対してのダーツの習得)	2.5時間
4	「原型1」 布に記した点をつなげて、線入れ(ボディーの線に合わせて点をうち、綺麗に線をつなげる技術を習得)	2.5時間
5	「原型1」 ピン打ちで組み立て(ピンで止める事で、トアルとし完成させる技術を習得)	2.5時間
6	「前原型2」(前身頃にあるバストに対して肩ダーツ、ウェストに対してのダーツの習得)	2.5時間
7	「後原型2」(後身頃にある肩甲骨に対して肩ダーツ、ウェストに対してのダーツの習得)	2.5時間
8	「原型2」 布に記した点をつなげて、線入れ(ボディーの線に合わせて点をうち、綺麗に線をつなげる技術を習得)	2.5時間
9	「原型2」 ピン打ちで組み立て(ピンで止める事で、トアルとし完成させる技術を習得)	2.5時間
10	「前原型3」(前身頃にあるバストに対してアームホールダーツ、ウェストに対してのダーツの習得)	2.5時間
11	「後原型3」(後身頃にある肩甲骨に対して肩ダーツ、ウェストに対してのダーツの習得)	2.5時間
12	「後見頃3」(布に記した点をつなげて、線入れ(ボディーの線に合わせて点をうち、綺麗に線をつなげる技術を習得)	2.5時間
13	「後見頃3」(ピン打ちで組み立て(ピンで止める事で、トアルとし完成させる技術を習得)	2.5時間
14	トレース(布の上で線を入れて組んだトアルを、紙上に置き写し型紙をつくる技法を習得)	2.5時間
15	トアルを組み立てトルソーに着装、完成形の確認	5時間
合計時数		42.5時間

終了成果物・修了試験・修了課題

各自ボディーに着装、身体に合っているか、ラインはきれいにできているか、生地扱い方、ピンの打ち方などトレースの仕方

評価方法・評価基準

原型課題 1/3、テスト点1/3、日常点 1/3  
出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり

パターン検定3級テキスト

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
文化服装学院技術専攻科卒業 各アパレルメーカーで、パタンナー職として25年勤務	基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	ドレーピングⅡ	科目区分	職業専門科目	
履修期間	後期	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	19回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	中島 由紀子	授業担当・外部講師		

授業の概要(科目のねらい)

各寸法をもとに行う平面製図ではなく、立体ボディーを使用して実際の布(シーチング)をあて、組み立て型紙を作り出す、立体裁断という技法を使い型紙作りをおこなう。

到達目標・習得技術

- ・布(シーチング)の地の目直しからはじめ、布の扱い方、ピンの打ち方を学ぶ。
- ・実際のボディーのフォルムに合わせて、ダーツの取り方を学ぶ。
- ・デザイン画に合わせて、美しいラインの見極めをおこない、デザインラインを作り表現していく。
- ・最終的には型紙をつくる。

授業方法・形態

ボディーに布(平面)をあてながら、身体フォルムに合わせて立体にしていく過程を学びながら、人体の凹凸に合わせてダーツをとることにより、ダーツの意味を理解していき、その後トレースをおこない、型紙をつくる。

項目	授業計画・内容	授業時数
1	「絵型ヨークBL」(トルソーの前衿ぐりをシーチングをあてながら点でうつしとり、衿ぐり作り出していく技法の習得)	2.5時間
2	「絵型ヨークBL」(前ヨーク線を絵型どなりにピンでつくる技法を習得)	2.5時間
3	「絵型ヨークBL」(ヨーク線をひき縫い代をつける技法を習得)	2.5時間
4	「絵型ヨークBL」(ヨークをトルソーに置き、シーチングをあて前身頃をつくる*バストダーツをヨーク線の中に入れる技法を習得)	2.5時間
5	「絵型ヨークBL」(身頃線をひき縫い代をつける技法の習得)	2.5時間
6	「絵型ヨークBL」(トルソーの後衿ぐりをシーチングをあてながら点でうつしとり、衿ぐり作り出していく技法の習得)	2.5時間
7	「絵型ヨークBL」(後ヨーク線を絵型どなりにピンでつくる技法を習得)	2.5時間
8	「絵型ヨークBL」(ヨークをトルソーに置き、シーチングをあて後身頃をつくる*肩ダーツをヨーク線の中に入れる技法を習得)	2.5時間
9	「絵型ヨークBL」(身頃線をひき縫い代をつける技法の習得)	2.5時間
10	「絵型ヨークBL」(ヨーク前身頃、前身頃ピン止めで組み立てトアルをつくる技術を習得)	2.5時間
11	「絵型ヨークBL」(ヨーク後身頃、後身頃ピン止めで組み立てトアルをつくる技術を習得)	2.5時間
12	トレース、前身頃(布の上で線を入れて組んだトアルを、紙上に置き写し型紙をつくる技法を習得)	5時間
13	トレース、後身頃(布の上で線を入れて組んだトアルを、紙上に置き写し型紙をつくる技法を習得)	5時間
14	トレース全箇所修正(布の上で線を入れて組んだトアルを、紙上に置き写し型紙をつくる技法を習得)	5時間
15	トアルを組み立てトルソーに着装、完成形の確認および点検	5時間
時間外授業合計時数		47.5時間

終了成果物・修了試験・修了課題

各自ボディーに着装、身体に合っているか、ラインはきれいで出ているか、生地扱い方、ピンの打ち方などトレースの仕方

評価方法・評価基準

絵型BL課題 1/3、トレース1/3、日常点 1/3  
出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり

教科書・参考書・資料・文献

パターン検定3級テキスト

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
文化服装学院技術専攻科卒業 各アパレルメーカーで、パタンナー職として25年勤務	基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	F画	科目区分	職業専門科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	1単位	16回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
<p>ファッションデザインにおけるスタイル画表現の基礎を修得することを目的とする。                  クロッキーやデッサンを通して人体および物体の構造的な理解を深め、観察力と造形把握力を養う。                  さらに、細密模写による質感表現の研究、マーカー等のアナログ画材の運用、タブレットを活用したデジタル描画までを段階的に学ぶことで、視覚伝達力の向上と自己の表現様式の確立。完成作品の量よりも、観察の深度・構造理解・線の質・表現意図を重視する。</p>				
到達目標・習得技術				
<p>1.観察に基づいた立体把握と空間認識、人体の構造と比率を理解し、論理的な作画方法                  2.素材・質感・光の関係を平面視覚的な表現                  3.アナログ・デジタル双方の特性の使い分け                  3.スタイル画を単なる図解ではなく、表現媒体として活用</p>				
授業方法・形態				
<p>スタイル画の基礎理論に関する講義と、実際に描画を行う演習(実技)を組み合わせ実施する。                  各回前半に技法や人体バランス、着彩理論等の解説を行い、後半に自己作品に取り組む課題を行う。制作物に対しては都度講評でフィードバック。</p>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	「見る(観察)」:線の性質と視覚認識、形を記号化(漫画化)しない(ドローイング)			2.5時間
2	「動静、重心バランス、線」:瞬間描画、線と動きの関係(クロッキー)			2.5時間
3	「人体構造の基礎理解」:比率の理論、人体認識(描画フレーム)			2.5時間
4	「量感と立体把握」:陰影による構造理解、奥行き表現			2.5時間
5	「質感・素材感の描き込み」:細密模写による再現力			2.5時間
6	「情報量の制御」:表現上の情報量制御(細密模写)			2.5時間
7	「衣服の立体的理解」:布の構造、ドレープ、張り、しわ、たまり(細密模写)			2.5時間
8	「スタイル画の基礎比率」:ファッション画特有の美意識			2.5時間
9	「線による表現研究」:描画線の特徴、強弱リズム			2.5時間
10	「画材の特性」:マーカーの色彩とトーン			2.5時間
11	「質感表現」:色鉛筆を使った透過素材・光沢素材の描写			2.5時間
12	「デジタルとアナログの融合」:特徴の有効活用			2.5時間
13	「自己の作画様式模索」:自己の線、色、構図の表現意図			2.5時間
14	「視覚伝達としてのスタイル画と製品図」:業界での実務をトレースした作画ルール			2.5時間
15	「総括:スタイル画とは何か」:実技筆記試験(課題画像テーマのF画作成)			2.5時間
合計時数				45時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
技術テーマ別課題作品、まとめ課題作品、知識・技術筆記試験				
評価方法・評価基準				
<p>課題(描画感覚、平面表現力、独創性、表現の豊かさ):1/3、テスト結果:1/3、日常点:1/3                  出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり</p>				
教科書・参考書・資料・文献				
『ファッションデザインテクニック』(グラフィック社) 著名デザイナーのドローイング、デザイン画集(オリジナル)				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
国内外ブランドでのデザイナー職			基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	デザイン表現基礎	科目区分	職業専門科目	
履修期間	後期	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	17回(18回)
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
<p>デザイン制作の技術習得を目的とするのではなく、自己の感性を育成し、創作意図を言語化し、デザインへと昇華するプロセスを体系的に学ぶ。ファッションデザインを主軸としながらも、造形表現全般に通じる「テーマの発見」「コンセプト構築」「視覚化の論理」「プレゼンテーション思考」を学ぶ。ペーパーヘッドドレス制作やファッションショー作品の考察を通し、造形感覚と批評的視点を養い、デザイナーとして必要な基礎知識(名称理解・構造理解)も並行して習得する。最終的には、自己の内面に根ざした創作意図を持ち、それを他者へ伝達できる表現力を身につける。</p>				
到達目標・習得技術				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.デザインを感覚ではなく「思考のプロセス」として捉え、テーマの発見からコンセプト構築までを論理的にとらえる。(ファッションショー作品を批評的に分析し、自身の創作へ応用)</li> <li>2.基礎造形を通して立体感覚・バランス感覚を育成する。</li> <li>3.デザイナーとして必要な基本名称・構造理解を身につける。</li> <li>4.自己の創作意図を言語化し、他者へ伝える力を養う。</li> </ol>				
授業方法・形態				
<p>デザイン考察およびプレゼンテーションを中心とした演習形式で実施する。課題に基づき、アイデアの発想・構想・視覚化、そのプロセスおよび成果について発表・講評を行う。学生間の相互評価を通じて思考力・表現力を養い、デザインの基礎的な理解と実践力の向上を目指す。</p>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	「デザインとは何か」:デザインを「装飾」ではなく「思考と意図の可視化」として捉え、創作における問いを持つ姿勢。			2.5時間
2	「テーマとは何か」:「なぜそれを表現したいのか」を掘り下げる思考			2.5時間
3	「テーマからコンセプトを導き出すプロセス」:創作意図の明確化			2.5時間
4	「プロセスの体系化」:リサーチ・分析・再構築、感覚と論理、デザインフレーム			5時間
5	「ファッションショー作品の考察①」:ショー作品を「造形」「構造」「メッセージ」の構想			5時間
6	「ファッションショー作品の考察②」:自己の方向性と他者作品の比較			2.5時間
7	「ショー作品のプレゼンテーション①」:ビジュアル構成の論理(プレゼンツールデザイン)			5時間
8	「ショー作品のプレゼンテーション②」:視覚資料と言語化、他者への伝達(中間プレゼン)			2.5時間
9	「基礎造形感覚の育成①ペーパーヘッドドレス」:素材の特性理解・重心・バランス・リズム(平面から立体感覚へ)			2.5時間
10	「基礎造形感覚の育成②ペーパーヘッドドレス」:条件、制約の中での創造性。造形とコンセプトの一致			2.5時間
11	「形態で語るメッセージ」:感覚を説明する力の養成(ペーパーヘッドドレス作品ファイル)			5時間
12	「形態で語るメッセージ」:"メッセージの伝達"ペーパーヘッドドレスプレゼン			2.5時間
13	「デザイナーに必要な基礎知識①」:衣服構造・名称理解、用語を通しての衣服について			2.5時間
14	「デザイナーに必要な基礎知識②」:業界専門用語の獲得(アイテム、デザイン用語理解)			5時間
15	「総括:デザイン表現とは何か」:思考するデザイナーとしての基盤知識形成(実技、知識のペーパーテスト)			2.5時間
合計時数				50時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
ポートフォリオ(デザイン思考プロセス記録)、プレゼンツール(ファッションショー作品分析作品)、造形作品(ペーパーヘッドドレス)、知識・技術筆記試験				
評価方法・評価基準				
<p>課題(論理的コンセプト説明、デザイン意図、課題全体像、プレゼン力、表現の豊かさ):1/3、テスト結果:1/3、日常点:1/3 出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり</p>				
教科書・参考書・資料・文献				
『デザイン学研究』(日本デザイン学会) 美学』(美学会) 用語・名称オリジナルテキスト				
担当教員の経歴・実務経歴		教員種別	科目所属科長	
国内外ブランドでのデザイナー職		基幹教員	ファッション造形科 鷺典子	

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	テキスタイルデザイン	科目区分	職業専門科目	
履修期間	後期	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	1単位	16回
設置学科・コース	ファッション造形科 デザイナーコース、パタンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
<p>本授業では、学生自身の作品制作に応用可能なテキスタイルデザインの基礎技術および応用力を身につけるため、図案制作・シルクスクリーン・手染め・加工技法などを総合的に学ぶ。学生はそれぞれの技法を理解しながら、自ら発想したコンセプトをもとに、オリジナルテキスタイル作品を制作することを目標とする。</p>				
到達目標・習得技術				
<p>図案構成の基本を理解し、シルクスクリーン製版・プリントの基本技法を習得。 染色手法(抜染、捺染、防染など)、用具の基礎知識と作業工程を身につける。 自らのコンセプトに基づいたオリジナルテキスタイルを制作。制作過程を振り返り、デザイン意図を言語化して発展性を研究考慮したプレゼンテーション力。</p>				
授業方法・形態				
<p>デモンストレーションからの実習を中心。 プレゼンテーションにおいては、学生同士の相互講評、評価を取り入れる。</p>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	オリエンテーション「テキスタイルデザインとは何か？」授業の目的・流れ・評価方法の説明			2.5時間
2	テキスタイルパターン図案研究①(リサーチ & スケッチ) テーマ、モチーフ設定			2.5時間
3	テキスタイルパターン図案研究②(送りパターン構成) リピートパターンレイアウトの基礎			2.5時間
4	シルクスクリーン基礎講習			2.5時間
5	最終図案制作(原画作成、配色指定)			2.5時間
6	版下作業			2.5時間
7	製版作業			2.5時間
8	捺染作業			2.5時間
9	染色基礎講義(染料の種類、色の定着原理、作業安全)			2.5時間
10	染色実習(反応染料・インディゴ・ボタニカル染め、防染糊染、抜染加工)			2.5時間
11	染めとプリントの組み合わせ実験			2.5時間
12	応用技法(オパール加工、フロッキー加工、熱収縮、プリーツ加工)			2.5時間
13	自己作品制作			2.5時間
14	発表(プレゼンテーション)ツール作成			5時間
15	作品講評会(プレゼンテーション)、終了試験			2.5時間
合計時数				40時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
テキスタイル作品、ポートフォリオ、知識問題筆記試験				
評価方法・評価基準				
<p>課題(論理的コンセプト説明、デザイン意図、課題全体像、プレゼン力、表現の豊かさ):1/3、テスト結果:1/3、日常点:1/3 出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり</p>				
教科書・参考書・資料・文献				
<p>テキスタイル用語辞典(編集:日本繊維機械学) テキスタイルのためのデザイン入門(著:フィオナ・バーマン)</p>				
担当教員の経歴・実務経歴		教員種別	科目所属科長	
多摩美術大学美術学部テキスタイルデザイン卒、修士。国内外ブランドでのデザイナー職		基幹教員	ファッション造形科 鷺典子	

ファッション造形科パターンナーコースシラバス

授業科目名	アパレルCAD I	科目区分	職業専門科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	1単位	17回
設置学科・コース	ファッション造形科パターンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	リビ 裕子	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
<p>CADは、Computer Aided Design の略で、コンピューターによる設計という意味です。よって、設計図作成の効率化や正確性の向上を目指し、殆どの企業で活用されています。授業では実践的なスキルを身につける為に、実務を想定した練習や効率良くキーボード操作が出来るスキルを身に付けて行きます。</p>				
到達目標・習得技術				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アパレルCADは、ショートカットキーの扱いに慣れて、全てを完全に習得をする。</li> <li>・2Dの平面製図の基本を学びながら、最も少ないキーボード操作でパターンを完成させるスキルを身に付けて行く。</li> </ul>				
授業方法・形態				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本課題のアイテムのシルエットを製図しながらショートカットキーの操作を把握していく。</li> <li>・そこから更に、各自オリジナルデザイン用のマニピュレーション技術を覚え、パターンアレンジを行なっていく。</li> </ul>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	CADの機能説明及びアパレル企業で求められているテクニックを説明			2.5時間
2	キーボード操作の基本を覚えながら、製図も同時に学んでいく。			2.5時間
3	基本のキーボード操作を繰り返しやる事で、同じ事が別のキーボード操作でも可能なことを知る。			2.5時間
4	製図の各シチュエーションで、どのキーボードを使用したらより効率がアップするか理解出来るようになる。			2.5時間
5	基本アイテムの製図とキーボードの把握レベルチェックのテストを行う。			2.5時間
6	基本アイテムの製図とキーボードの把握レベルチェックのテストの結果報告・復習			2.5時間
7	軽衣料のアイテムの製図を学びながら段々とキーボード操作の使い分けを把握してくる。			2.5時間
8	CADでの製図方法が早くなり、効率がアップしてくる。			2.5時間
9	軽衣料で、各自オリジナルデザインの製図を試みる。			2.5時間
10	製図をしたら、それを完成パターンにまで作成する。			5時間
11	CADで行う、パターン完成チェックの方法を学ぶ			2.5時間
12	パターン修正とは何をしなければならないかに気付き、最初の製図をする際に注意すべきCAD操作を考える。			2.5時間
13	CADで工業用パターンを作成する。			5時間
14	完成パターンが正確に修正出来ていないと工業用パターンにならない事を学ぶ。			2.5時間
15	工業用パターンまで仕上げる為に正確なCAD操作が必要である事を知る。			2.5時間
合計時数				42.5時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題デザインの完成パターン</li> <li>・キーボード把握確認試験</li> <li>・オリジナルデザインの完成パターン</li> </ul>				
評価方法・評価基準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験(筆記)1/3</li> <li>・作品、課題評価(作品の製図力、スピード、応用力)1/3</li> <li>・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3</li> </ul>				
教科書・参考書・資料・文献				
日本ファッション教育振興協会パターンメイキング検定2・3級教本、CAD指導プリントテキスト				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
文化服装学院卒、アパレル企業にてデザイナー&パターンナー職に就く。その後、専門学校で教職に45年以上従事している。			実務家教員 基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パターンナーコースシラバス

授業科目名	アパレルCAD II	科目区分	職業専門科目	
履修期間	後期	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	1単位	16回
設置学科・コース	ファッション造形科パターンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	リビ 裕子	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
<p>CADは、Computer Aided Design の略で、コンピューターによる設計という意味です。よって、設計図作成の効率化や正確性の向上を目指し、殆どの企業で活用されています。授業では実践的なスキルを身につける為に、実務を想定した練習や効率良くキーボード操作が出来るスキルを身に付けて行きます。</p>				
到達目標・習得技術				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・更に複雑なショートカットキーの扱いに慣れて、全てを完全に習得をする。</li> <li>・応用デザインの平面製図を学びながら、最も少ないキーボード操作でパターンを完成させるスキルを身に付けて行く。</li> </ul>				
授業方法・形態				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用課題のアイテムのシルエットを製図しながら、更に高度なショートカットキーの操作を把握していく。</li> <li>・そこから更に、各自オリジナルデザイン用のマニピュレーション技術を覚え、パターンアレンジを行なっていく。</li> </ul>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	アパレル企業で求められている応用テクニックを説明			2.5時間
2	キーボード操作の応用を覚えながら、製図も同時に学んでいく。			2.5時間
3	複雑なのキーボード操作を繰り返しやる事で、同じ事が別のキーボード操作でも可能なことを知る。			2.5時間
4	製図の各シチュエーションで、どのキーボードを使用したらより効率がアップするか理解出来る。			2.5時間
5	応用アイテムの製図とキーボードの把握レベルチェックのテストを行う。			2.5時間
6	応用アイテムの製図とキーボードの把握レベルチェックのテストの結果報告・復習			2.5時間
7	重衣料のアイテムの製図を学びながら段々とキーボード操作の使い分けを把握してくる。			2.5時間
8	CADでの製図方法が早くなり、効率がアップしてくる。			2.5時間
9	重衣料で、各自オリジナルデザインの製図を試みる。			2.5時間
10	製図をしたら、それを完成パターンにまで作成する。			2.5時間
11	CADで行う、パターン完成チェックの方法を学ぶ			2.5時間
12	パターン修正とは何をしなければならないかに気付き、最初の製図をする際に注意すべきCAD操作を考える。			5時間
13	CADで工業用パターンを作成する。			2.5時間
14	完成パターンが正確に修正出来ていないと工業用パターンにならない事を学ぶ。			2.5時間
15	CADで縫製指示書の作成を学ぶ			2.5時間
合計時数				40時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題デザインの工業用パターン</li> <li>・試験用課題デザインの製図・完成・工業用パターン提出</li> <li>・オリジナルデザインの完成・工業用パターン・縫製指示書</li> </ul>				
評価方法・評価基準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験(筆記)1/3</li> <li>・作品、課題評価(作品の製図力、スピード、応用力)1/3</li> <li>・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3</li> </ul>				
教科書・参考書・資料・文献				
日本ファッション教育振興協会パターンメイキング検定2・3級教本、CAD指導プリントテキスト				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
文化服装学院卒、アパレル企業にてデザイナー&パターンナー職に就く。その後、専門学校で教職に45年以上従事している。			実務家教員 基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	グラフィックデザイン実習 I	科目区分	職業専門科目	
履修期間	通年	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	36回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	田中 小百合	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
MacPCを利用したグラフィック制作ソフト(Illustrator・Photoshop)の基礎知識、基礎技術の習得。 座学と実践を通じてデザイン構築の4大原則を学び、より魅力的でユーザー目線に立ったデザインを制作するための知識を養う。 MacPCの基本的な操作を学び、実務で活用するためのPCスキルを習得する。				
到達目標・習得技術				
1. MacPCの扱い方を始め、Illustrator、Photoshopなどのデザイン制作ソフトの基本操作を学ぶ 2. デザインを構築するためのノウハウを学び、チラシやDMなどの紙面や、EC制作に応用ができる技術と知識を習得する 3. 画像形式などの種類や使い分けに関する基礎知識を学び、デジタル分野におけるデータの取り扱い方法を習得する				
授業方法・形態				
主にMacPCを使用した実習と、座学。前面モニターでは教員がソフトを操作する様子がリアルタイムに投影されており、その操作手順を確認しながら、学生1人1人に割り当てられたPCで実際に作業の練習を行い、ソフトの操作方法や技術を習得していく。時には作品制作を通して自身の技術の習得度を測り、苦手な作業分野の再習得と、得意な分野の更なる向上を目指す。				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	授業内容の説明、PC周辺機器に関する基礎知識(座学)、ソフトの種類の説明、MacPCの基本操作、ソフト基本操作			5時間
2	Illustrator基本操作の習得: 選択ツール、図形の描画と変形、色の付け方を簡単なイラスト制作で学ぶ			5時間
3	Illustrator基本操作の習得: コピーとペースト、回転、反転、線ツールを使ってアイコンを制作する			5時間
4	ハンガーイラストの作成: 線ツール・ペンツール、パスの結合をマスターし、ベジェ曲線・ベクターデータを理解する			5時間
5	メニュー表の作成: 文字ツール、クリッピングマスク、写真を組み合わせたデータの制作方法を学ぶ			5時間
6	自己紹介シートの作成: 文字パネルの使い方、文字の組み方からレイアウトデザインを学ぶ			7.5時間
7	ルックブックの作成: 写真を多用したデータの取り扱い方、データの書き出し方法を学ぶ			7.5時間
8	中間チェック: カタログの作成: ページものの作成を通じて、基礎的な操作方法の習得、レイアウト能力の確認			7.5時間
9	イベントチラシの作成: デザイン4大原則に基づいた、より実践的に見栄えのあるレイアウトを組む方法			5時間
10	Photoshop基本操作の習得: ソフトの違いについて復習、操作説明、簡単な画像加工からPhotoshopの導入			5時間
11	選択ツール各種、選択とマスク、切り抜きを使った合成写真の作成を通して写真加工のテクニックを学ぶ			7.5時間
12	歪みツール、文字ツール、フィルターを利用した、より複雑な画像加工テクニックを学ぶ			7.5時間
13	夏休みの思い出雑誌制作: 解像度について(座学)、印刷に適したデータの作り方			7.5時間
14	オリジナルブランド制作: ターゲットの設定方法(座学)から、より市場を意識したデザイン構築の方法			7.5時間
15	Illustrator・Photoshop / 期末テスト(ペーパー、実技)による習得度の確認			2.5時間
合計時数				90時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
筆記テストにおけるPC・ソフトの基本用語、基本知識の確認 / 実技テストにおける操作方法の習得状況の確認				
評価方法・評価基準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末テスト(筆記・実技テスト): 1/3</li> <li>・作品、課題評価(ソフトやPCに関する知識の理解・技術の習得度、オリジナリティの表現、応用力): 1/3</li> <li>・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目): 1/3</li> </ul>				
教科書・参考書・資料・文献				
Adobeラーニング、アドビ認定プロフェッショナル対応Photoshop試験対策(オデッセイコミュニケーションズ) アドビ認定プロフェッショナル対応Illustrator試験対策(オデッセイコミュニケーションズ) Photoshopしっかり入門(SBクリエイティブ)、Illustratorしっかり入門(SBクリエイティブ)				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
阿佐ヶ谷美術専門学校 卒業 広報物のインハウスデザイナー兼、デザイン系ソフトの講師として教務を担当。企業向けセミナー講師の経験有り。			基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	グラフィックデザイン実習Ⅱ	科目区分	職業専門科目	
履修期間	通年	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	38回
設置学科・コース	ファッション造形科 デザイナーコース、パタンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	田中 小百合	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
MacPCを利用したグラフィック制作ソフト(Illustrator・Photoshop)の応用知識、応用技術の習得。 座学と実践を通じてデザイン構築の4大原則を学び、より魅力的でユーザー目線に立ったデザインを制作するための知識を養う。 応用力を踏まえた作品制作を通じて、より実務的な知識、技術のスキルを習得する。				
到達目標・習得技術				
1.Illustrator、Photoshopをはじめ、周辺ソフトを活用したデザイン制作ソフトの応用操作を学ぶ 2.デザインを構築するためのノウハウを学び、チラシやDMなどの紙面や、EC制作に応用ができる技術と知識を実務レベルで習得する 3.データの変換方法や活用法などに関する知識を学び、デジタル分野における基本的な能力を習得する。				
授業方法・形態				
主にMacPCを使用した実習と、座学。前面モニターでは教員がソフトを操作する様子がリアルタイムに投影されており、その操作手順を確認しながら、学生1人1人に割り当てられたPCで実際に作業の練習を行い、ソフトの操作方法や技術を習得していく。時には作品制作を通して自身の技術の習得度を測り、苦手な作業分野の再習得と、得意な分野の更なる向上を目指す。				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	基本操作の復習:練習用ワークを通じて1年次の基礎知識の復習、2年次の習得内容、目標の確認			5時間
2	ショップカードの作成:地図制作から学ぶ著作権について(座学)、より複雑なオブジェクトの制作を学ぶ			5時間
3	4大原則を意識した綺麗なレイアウトデザインとは(座学)			5時間
4	クライアントを想定したチラシデザイン:デザインクイズを通じて、より見栄えの良いデザインを感覚で掴む			7.5時間
5	文字パネル応用編:文字の種類、サイズ計算方法、綺麗な文字組みを学ぶ			7.5時間
6	3D機能を利用したモックアップの作成:3D機能を利用して、立体的なモックアップの制作を学ぶ			7.5時間
7	店舗(VMD)デザイン:遠近グリッドを使用した立体図の作成から、体系的なデザインの提案力を学ぶ			7.5時間
8	中間チェック:オリジナル店舗のブランドコンセプト(プレゼンテーション)、ソフト応用力とデザイン力の習得度の確認			7.5時間
9	Webサイト制作練習:Web広告、Webサイトのトレース練習を通じて、UI/UXを意識した画面構築を学ぶ			5時間
10	オリジナルWebサイトの作成:Adobe Portfolioの基礎知識、サイト構築の方法を学ぶ			5時間
11	ハンガーイラスト制作:Illustrator、Photoshopの機能を活用した、より実践的なファッションコンセプトの作り方			7.5時間
12	ターゲットを意識したブランドの制作:訴求力のあるデザイン制作のために、AI機能の活用を学ぶ			5時間
13	Photoshopを使用したCameraRawフィルター、高度な写真リタッチの応用を学ぶ			7.5時間
14	コラージュアートポスターの制作:ブランドイメージを元に、ビジュアルとして表現する方法を追求する			7.5時間
15	Illustrator・Photoshop/期末テスト(ペーパー、実技)による習得度の確認			5時間
合計時数				95時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
筆記テストにおけるPC・ソフトの基本用語、応用知識の確認/実技テストにおける操作方法の習得状況の確認				
評価方法・評価基準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末テスト(筆記・実技テスト): 1/3</li> <li>・作品、課題評価(ソフトやPCに関する知識の理解・技術の習得度、オリジナリティの表現、応用力): 1/3</li> <li>・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目): 1/3</li> </ul>				
教科書・参考書・資料・文献				
Adobeラーニング、アドビ認定プロフェッショナル対応Photoshop試験対策(オデッセイコミュニケーションズ) アドビ認定プロフェッショナル対応Illustrator試験対策(オデッセイコミュニケーションズ) Photoshopしっかり入門(SBクリエイティブ)、Illustratorしっかり入門(SBクリエイティブ)				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
阿佐ヶ谷美術専門学校 卒業 広報物のインハウスデザイナー兼、デザイン系ソフトの講師として教務を担当。企業向けセミナー講師の経験有り。			基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	基本製図 I	科目区分	職業専門科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	33回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	中島 由紀子	授業担当・外部講師	小泉・福永	

授業の概要(科目のねらい)

洋服の設計図としての身体のフォーム、デザインに合わせて、シルエットを各寸法をもとに、紙の上で型紙をつくる基本製図を学び、デザインに応じての型紙づくりをおこなう。

到達目標・習得技術

- ・基本になるダーツをとることで身体にあったシルエットづくりを学ぶ。
- ・衿ぐり、袖ぐり、股ぐり、などの形状を学ぶ。
- ・基本となるアイテムの製図を学ぶ。
- ・応用製図を学ぶ。

授業方法・形態

初めに各自の採寸を行い、自分の原型を作成、身体のフォームに合わせてダーツの取り方を学びながら、デザイン、シルエット出し、製図を学び実際に服作りを行うための型紙をつくる。

項目	授業計画・内容	授業時数
1	採寸、原型製図(標準寸法をもとに、池田システム原型方を使用し製図、その後各自採寸自分原型を作製)	7時間
2	セミタイトSK製図(ボトムスの基本原型、標準寸法で製図、その後各自採寸製図)	9時間
3	メンズ原型(標準寸法をもとに製図、その後各自採寸自分原型を作製)	5時間
4	ダーツ展開①②③④⑤(バスト、ウエストダーツを各箇所から移動しながら展開を行なってダーツを習得)	5時間
5	ダーツ展開⑥⑦⑧⑨⑩(バスト、ウエストダーツを各箇所から移動しながら展開を行なってダーツを習得)	5時間
6	カラー、スリーブ製図(衿、袖の基本製図を習得)	5時間
7	ドロップシャツ製図①(標準寸法で基本製図を行い、その後各自の寸法で製図を習得)	9時間
8	スカート製図・フレアー(スカート原型からフレアースカートに展開製図を習得)	4時間
9	スカート製図・ギャザー(スカート原型からギャザースカートに展開製図を習得)	2.5時間
10	スカート製図・ティアード(ティアードスカートに展開製図を習得)	2.5時間
11	パンツ製図①(標準寸法で基本製図を習得)	3時間
12	パンツ製図②(各自の寸法で製図を習得)	9時間
13	ワンピース製図①(中寸法でパネルライン、ローウエストの基本製図を習得)	5時間
14	ワンピース製図②(各自の寸法で、デザインに合わせての製図を習得)	9時間
15	前期修了テスト(基本製図の確認)	2.5時間
合計時数		82.5時間

終了成果物・修了試験・修了課題

レディース原型、メンズ原型、スカート、ブラウス、パンツ、ワンピースの基本製図製図の試験

評価方法・評価基準

課題製図の評価1/3、テスト結果 1/3、日常点 1/3%  
出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり

教科書・参考書・資料・文献

服飾教本(上・下)、基本製図テキスト  
BASIC TEXT

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
文化服装学院技術専攻科卒業 各アパレルメーカーで、パタンナー職として25年勤務	基幹教員 実務家	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	基本製図Ⅱ	科目区分	職業専門科目	
履修期間	後期	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	35回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	中島 由紀子	授業担当・外部講師	小泉・福永	

授業の概要(科目のねらい)

洋服の設計図としての身体のフォーム、デザインに合わせて、シルエットを各寸法をもとに、紙の上で型紙をつくる基本製図を学び、デザインに応じての型紙づくりをおこなう。

到達目標・習得技術

- ・基本になるダーツをとることで身体にあったシルエットづくりを学ぶ。
- ・衿ぐり、袖ぐり、股ぐり、などの形状を学ぶ。
- ・基本となるアイテムの製図を学ぶ。
- ・応用製図を学ぶ。

授業方法・形態

初めに各自の採寸を行い、自分の原型を作成、身体の立体に合わせてダーツの取り方を学びながら、デザイン、シルエット出し、製図を学び実際に服作りを行うための型紙をつくる。

項目	授業計画・内容	授業時数
1	ベスト製図(標準寸法で基本製図を行い、その後各自寸法でデザインに応じて製図を習得)	5時間
2	シャツ②製図(標準寸法で基本製図を習得)	5時間
3	シャツ③製図(標準寸法で基本製図を習得)	5時間
4	フリル&ペプラムブラウス④製図(標準寸法で基本製図を習得)	5時間
5	スカートデザイン(ギャザー)⑤製図(標準寸法で基本製図を習得)	5時間
6	スカートデザイン(フレアー)⑥製図(標準寸法で基本製図を習得)	5時間
7	スカートデザイン(タック)⑦製図(標準寸法で基本製図を習得)	5時間
8	キュロット⑧製図(標準寸法で基本製図を習得)	5時間
9	ジャケット⑨製図(標準寸法で基本製図を習得)	5時間
10	ベスト製図(標準寸法で基本製図、その後各自寸法でデザインに応じて製図を習得)	12時間
11	応用製図①袖バリエーション(標準寸法で基本製図を習得)	5時間
12	応用製図②衿バリエーション(標準寸法で基本製図を習得)	7.5時間
13	応用製図③フードバリエーション(標準寸法で基本製図を習得)	7.5時間
14	応用製図④フリルバリエーション(標準寸法で基本製図を習得)	7.5時間
15	後期修了テスト(応用製図の確認)	3時間
合計時数		87.5時間

終了成果物・修了試験・修了課題

ベスト、シャツ、スカートデザイン、キュロット、ジャケットの基本製図製図試験

課題製図の評価1/3、テスト結果 1/3、日常点 1/3  
出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり

教科書・参考書・資料・文献

服飾教本(上・下)、基本製図テキスト  
BASIC TEXT

担当教員の経歴・実務経歴

文化服装学院技術専攻科卒業  
各アパレルメーカーで、パタンナー職として25年勤務

教員種別

基幹教員  
実務家

科目所属科長

ファッション造形科  
鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	服飾造形実習 I	科目区分	職業専門科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	3単位	52回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	中島 由紀子	授業担当・外部講師	小泉・福永	

授業の概要(科目のねらい)

各寸法を基に、平面で製図した型紙を用布の上で裁断し、縫い合わせ、立体化して着用し、服となっていく工程の理解と、様々な縫製技術の習得をする。

到達目標・習得技術

- ・手縫い、ミシン技術を学ぶ。
- ・様々な基本的な縫製技術を学ぶ。
- ・服飾資材の知識と扱い方を学ぶ。
- ・納期の期限を守る意識を身につける。

授業方法・形態

手縫い・ミシンの基本的技術、操作を行う。  
生地・副資材などの知識をふかめ、実際の縫製技術を高めて洋服づくりの基本を行う。

項目	授業計画・内容	授業時数
1	身体の採寸(体の各箇所を正確に測る事により着やすく、かたちの良い服作りを行う)	5時間
2	ミシンの扱いについて(糸のかけ方、縫い合わせ、端始末を行うロックミシンの技術習得)	5時間
3	ピンクッション製作(手縫いの技法、装飾を行い実際に使用する針山製作を行う)	5時間
4	トートバック製作(各自バックに的する生地を選び、裁断、縫製、ミシンの扱い方の練習を行う)	8時間
5	セミタイトSK生地裁断(綿生地の扱い、柄の特性、地の目の重要性などを基本的知識の習得)	5時間
6	セミタイトSK縫い代始末(生地の端始末の仕方の基本知識の習得)	5時間
7	セミタイトSK縫製(ミシンの糸調子の合わせ、中表に縫い合わせ、アイロンがけの技法の習得)	13時間
8	ドロップショルダーシャツ生地裁断(生地、柄の特性、見返しの必要性、型入れの重要性を習得)	7.5時間
9	ドロップショルダーシャツ芯貼り(芯を貼る意味、必要性、芯の貼り方を習得)	7.5時間
10	ドロップショルダーシャツ縫製(袖ぐりのインカーブとアウトカーブの縫い合わせ、衿づくりの習得)	10時間
11	パンツ生地裁断(ウール素材の扱い方、地の目の通し方の習得)	7.5時間
12	パンツ縫製(ウール素材の端始末、ミシンの扱い方の習得)	13時間
13	ワンピース生地裁断(各パーツの柄合わせ、異素材の組み合わせなど考慮しながらの型入れの習得)	5時間
14	ワンピース縫製(縫製工程の構築、異素材の縫製技術の習得)	31時間
15	前期修了テスト(基本的復習の確認)	2.5時間
合計時数		130時間

終了成果物・修了試験・修了課題

ピンクッション、トートバック、セミタイトSK、ドロップシャツ、ワンピース、パンツの完成評価  
ミシンの扱い方、用語、縫製工程、についての試験

評価方法・評価基準

課題(素材選び、デザイン、製図、縫製) 1/3、テスト結果 1/3、日常点 1/3  
出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり

教科書・参考書・資料・文献

服飾教本(上・下)、部分縫いプリント  
BASIC TEXT

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
文化服装学院技術専攻科卒業 各アパレルメーカーで、パタンナー職として25年勤務	基幹教員 実務家	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	服飾造形実習Ⅱ	科目区分	職業専門科目	
履修期間	後期	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	3単位	36回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	基礎課程	
教員	中島 由紀子	授業担当・外部講師	小泉・福永	

授業の概要(科目のねらい)

各寸法を基に、平面で製図した型紙を用布の上で裁断し、縫い合わせ、立体化して着用し、服となっていく工程の理解と、様々な縫製技術の習得をする。

到達目標・習得技術

- ・手縫い、ミシン技術を学ぶ。
- ・様々な基本的な縫製技術を学ぶ。
- ・服飾資材の知識と扱い方を学ぶ。
- ・納期の期限を守る意識を身につける。

授業方法・形態

手縫い・ミシンの基本的技術、操作を行う。  
生地・副資材などの知識をふかめ、実際の縫製技術を高めて洋服づくりの基本を行う。

項目	授業計画・内容	授業時数
1	ベスト裁断(裏地の扱い、見返しなどの芯貼り箇所のアラ断ちの習得)	5時間
2	ベスト芯、伸び止め貼り(芯貼り、伸び止めの目的、貼り方の習得)	5時間
3	ベスト仮縫い合わせ、試着、補正(体に合わせたの補正、ラインの修正、バランスの確認などの習得)	5時間
4	ポケット(フラップ、玉縁、箱)部分縫い(ポケットの構成、作り方を習得)	5時間
5	ベスト縫製(縫製工程、ポケット、見返し、裏地、どんでん返しの習得)	12時間
6	ベストまとめ(手縫いの技法、ボタンつけ、ボタンホールの習得)	5時間
7	ショー作品デザインカテゴリー決め(合同でのグループ分けを行い、各自のコンセプトをしっかりと見極める)	5時間
8	ショー作品素材決め(デザイン画をもとに、素材・副資材選びを習得)	5時間
9	ショー作品裁断(各素材にあわせての裁断、型入れを習得)	5時間
10	ショー作品仮縫い合わせ、試着、補正(体に合わせたの補正、ラインの修正、バランスの確認などの習得)	6時間
11	ショー作品本体縫製(生地に合わせたのミシン調子、各場所に合わせたの縫製技術を習得)	20時間
12	ショー作品装飾(デザインに合わせて効果的にする技術を習得)	4時間
13	基礎科全体で音響、照明、映像、出順など打ち合わせ(カテゴリーに合わせてショー全体を企画、構成を習得)	2.5時間
14	修了ショー小物づくり、まとめ(作品全体の完成度を高める)	3時間
15	後期修了テスト(基本的な基礎知識を確認)	2.5時間
合計時数		90時間

終了成果物・修了試験・修了課題

ベスト(見返し、裏地付きを学ぶ)、デザイン画をもとに製図を行い、縫製の完成評価  
ショー作品に関しては、各自のコンセプトにあったデザインを行い、素材選びから製図、縫製の完成評価  
修了テストはファッション全般に関する基礎知識の確認

評価方法・評価基準

課題(素材選び、デザイン、製図、縫製) 1/3、テスト結果 1/3、日常点 1/3  
出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり

教科書・参考書・資料・文献

服飾教本(上・下)、部分縫いプリント  
BASIC TEXT

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
文化服装学院技術専攻科卒業 各アパレルメーカーで、パタンナー職として25年勤務	基幹教員 実務家	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	服飾造形実習Ⅲ	科目区分	職業専門科目	
履修期間	前期	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	36回
設置学科・コース	ファッション造形科 デザイナーコース、パタンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	リビ 裕子	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材の知識・特質を学び、その素材を加工する研究をしながら様々なテクニックを生み出す可能性に気付いていく。</li> <li>・自分が描いたデザイン画のイメージ通りに作品を仕上げる技術を磨く。</li> </ul>				
到達目標・習得技術				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が描いたデザイン画のイメージ通りに作品を仕上げる技術を身に付ける。</li> <li>・素材加工をした後、洋服として形にしていく縫製技術を向上させる。</li> </ul>				
授業方法・形態				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な素材に触れて、素材名・生地名を覚える。</li> <li>・オリジナルデザインで作品制作をする。</li> </ul>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	生地を触って、服作りに興味を持つようにする			5時間
2	素材加工のテクニックを考え研究をする			7.5時間
3	各アイテムの基本型の課題を示し、各自オリジナルデザインを考える			7.5時間
4	製図をしていく上で、使用する素材を考慮し、着心地を重視した緩みを的確な場所に入れる			7.5時間
5	トワルでチェックする時に全体のシルエットを捉えることが出来る			7.5時間
6	補正作業をしながら、縫製工程を考えさせる			5時間
7	完成パターン作成時には、パターンのライン修正や寸法チェックの大切さを知る			5時間
8	縫い代を付けていく工業用パターン作成には、使用素材の特質を十分に把握する必要がある事が分かる			5時間
9	生地を裁断する時に芯を貼るパーツには、別の裁断方法があることを学ぶ			7.5時間
10	正確な裁断こそ求めるシルエットを表現出来る			7.5時間
11	自分が付けた縫い代幅を覚えておかなければならない。間違ると縫製時間にロスが発生する			5時間
12	縫製は、先ずミシンと仲良くなろう			5時間
13	自分の思い通りに操れるミシンにする。針目・糸調子・その他を素材に合わせて調整しよう			5時間
14	アイロンテクニックは十分に身に付ける必要がある事を服作りの経験を通して知ることになる			5時間
15	プレゼンテーションの訓練の為、作品を発表しながら、自分のデザインポイントを解説する			5時間
合計時数				90時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルデザインのシャツ類・パンツ類を作成</li> <li>・各自指定課題デザインのディテールの部分縫いの試験</li> <li>・変わり素材のアレンジテクニックを使ったオリジナルデザイン作品を作成</li> </ul>				
評価方法・評価基準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験(筆記)1/3</li> <li>・作品、課題評価(作品のデザイン応用力・縫製技術力)1/3</li> <li>・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3</li> </ul>				
教科書・参考書・資料・文献				
池田学園教科書、ファッション雑誌(BOGUE・ELLEその他)、文化出版局の衿のデザイン・袖のデザイン				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
文化服装学院卒、アパレル企業にてデザイナー&パタンナー職に就く。その後、専門学校で教職に45年以上従事している。			実務家教員 基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	服飾造形実習Ⅳ	科目区分	職業専門科目	
履修期間	後期	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	3単位	40回
設置学科・コース	ファッション造形科 デザイナーコース、パタンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	リビ 裕子	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材の知識・特質を学び、その素材を加工する研究をしながら様々なテクニックを生み出す可能性に気付いていく。</li> <li>・自分が描いたデザイン画のイメージ通りに作品を仕上げる技術を磨く。</li> </ul>				
到達目標・習得技術				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が描いたデザイン画のイメージ通りに作品を仕上げる技術を身に付ける。</li> <li>・素材加工をした後、洋服として形にしていく縫製技術を向上させる。</li> </ul>				
授業方法・形態				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な素材に触れて、素材名・生地名を覚える。</li> <li>・オリジナルデザインで作品制作をする。</li> </ul>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	生地を触って、服作りに興味を持つようにする			5時間
2	素材加工のテクニックを考え研究をする			5時間
3	各アイテムの応用型の課題を示し、各自オリジナルデザインを考える			5時間
4	製図をしていく上で、使用する素材を考慮し、着心地を重視した緩みを的確な場所に入れる			5時間
5	トワルでチェックする時に全体のシルエットを捉えることが出来る			7.5時間
6	補正作業をしながら、縫製工程を考えさせる			7.5時間
7	完成パターン作成時には、パターンのライン修正や寸法チェックの大切さを知る			7.5時間
8	縫い代を付けていく工業用パターン作成には、使用素材の特質を十分に把握する必要がある事が分かる			7.5時間
9	生地を裁断する時に芯を貼るパーツには、別の裁断方法があることを学ぶ			7.5時間
10	正確な裁断こそ求めるシルエットを表現出来る			7.5時間
11	自分が付けた縫い代幅を覚えておかなければならない。間違ると縫製時間にロスが発生する			7.5時間
12	縫製は、先ずミシンと仲良くなろう			7.5時間
13	自分の思い通りに操れるミシンにする。針目・糸調子・その他を素材に合わせて調整しよう			7.5時間
14	アイロンテクニックは十分に身に付ける必要がある事を服作りの経験を通して知ることになる			7.5時間
15	プレゼンテーションの訓練の為、作品を発表しながら、自分のデザインポイントを解説する			5時間
合計時数				100時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルデザインの重衣料の素材研究をした作品を作成</li> <li>・重衣料における様々なディテールの中から部分縫いの試験を行う。</li> <li>・素材研究・パターンアレンジをした作品を完成させる。</li> </ul>				
評価方法・評価基準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験(筆記)1/3</li> <li>・作品、課題評価(作品のデザイン応用力・素材アレンジ技術力)1/3</li> <li>・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3</li> </ul>				
教科書・参考書・資料・文献				
池田学園教科書、ファッション雑誌(BOGUE・ELLEその他)、文化出版局の衿のデザイン・袖のデザイン				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
文化服装学院卒、アパレル企業にてデザイナー&パタンナー職に就く。その後、専門学校で教職に45年以上従事している。			実務家教員 基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	服飾製図 I	科目区分	職業専門科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	34回
設置学科・コース	ファッション造形科 デザイナーコース・パタンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	リビ 裕子	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
各アイテムの基本デザインの形を理解し、そのパーツの形を知る事から様々な服の成り立ちを考え、洋服のシルエットを変化させる為の方法を製図を通して学んでいく。				
到達目標・習得技術				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・思い描いている服のシルエットを表現するには、素材の素材名や、その素材の持つ感触・特質を知る必要がある事を学ぶ。</li> <li>・素材に合わせたパターン作成が的確に出来るようになる。</li> </ul>				
授業方法・形態				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本型のアイテムは、使用する素材を鑑みて、各自のデザインにアドバイスを行い、作りたいデザインに持って行くパターン展開を指導する。</li> <li>・それぞれの作品を発表する事でプレゼンテーションの経験を積んで行く。</li> </ul>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	課題アイテムのアレンジパターンに持って行く方法として、幾つかパターンの形を見せる			5時間
2	それを元に更にパターンの展開方法がある事を学ぶ			5時間
3	同じパターンでも素材によってシルエットが変わってくることを知る			5時間
4	各自自分の選んだ素材に合わせてパターン修正をして行く			5時間
5	完成したパターンが思い通りのシルエットになっているかトワルの作成をする			7.5時間
6	トワルの修正方法を学ぶ(この時、使用素材を見ながら、シルエットの補正方法を学ぶ)			5時間
7	完成パターンが出来たら、工業用パターンを作成する(この時、素材の特質に合わせた縫い代付けをする)			7.5時間
8	自由アイテムのオリジナルデザインのパターンを作成する			7.5時間
9	製図は、着心地を考慮して、尚且つ自分の求めるシルエットを素材の特質に合わせて形作って行く			5時間
10	完成したパターンが思い通りのシルエットになっているかトワルの作成をする			5時間
11	トワルの修正方法を学ぶ(この時、使用素材を見ながら、シルエットの補正方法を学ぶ)			5時間
12	完成パターンが出来たら、工業用パターンを作成する(この時、素材の特質に合わせた縫い代付けをする)			7.5時間
13	縫製工程を考えてみる(パターンの形に合わせて縫製工程も変わってくる事を知る)			5時間
14	素材の伸び・ほつれ・パッカリングやてかりなどを考えて縫い代幅が変わる事を覚える			5時間
15	トワルのプレゼンテーションをする			5時間
合計時数				85時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルデザインのシャツ類・パンツ類の製図・工業用パターン完成</li> <li>・各パーツパターンのライン名称・ディティールデザインの様々な名称・採寸箇所の名称</li> <li>・変わり素材のアレンジテクニックを使ったオリジナルデザインパターンを作成</li> </ul>				
評価方法・評価基準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験(筆記)1/3</li> <li>・作品、課題評価(作品の製図力、デザイン力・素材知識)1/3</li> <li>・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3</li> </ul>				
教科書・参考書・資料・文献				
池田学園教科書、日本ファッション教育振興協会、文化出版局の衿のデザイン・袖のデザイン				
担当教員の経歴・実務経歴		教員種別	科目所属科長	
文化服装学院卒、アパレル企業にてデザイナー&パタンナー職に就く。その後、専門学校で教職に45年以上従事している。		実務家教員 基幹教員	ファッション造形科 鷺典子	

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	服飾製図Ⅱ	科目区分	職業専門科目	
履修期間	後期	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	38回
設置学科・コース	ファッション造形科 デザイナーコース、パタンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	リビ 裕子	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
各アイテムの基本デザインの形を理解し、そのパーツの形を知る事から様々な服の成り立ちを考え、洋服のシルエットを変化させる為の方法を製図を通して学んでいく。				
到達目標・習得技術				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・思い描いている服のシルエットを表現するには、素材の素材名や、その素材の持つ感触・特質を知る必要がある事を学ぶ。</li> <li>・素材に合わせたパターン作成が的確に出来るようになる。</li> </ul>				
授業方法・形態				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本型のアイテムは、使用する素材を鑑みて、各自のデザインにアドバイスを行い、作りたいデザインに持って行くパターン展開を指導する。</li> <li>・それぞれの作品を発表する事でプレゼンテーションの経験を積んで行く。</li> </ul>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	応用課題アイテムのアレンジパターンに持って行く方法として、幾つかパターンの形を見せる			5時間
2	それを元に更にパターンの展開方法がある事を学ぶ			5時間
3	同じパターンでも素材によってシルエットが変わってくることを知る			5時間
4	各自自分の選んだ素材に合わせてパターン修正をして行く			7.5時間
5	応用デザインの完成したパターンが思い通りのシルエットになっているかトワルの作成をする			7.5時間
6	トワルの修正方法を学ぶ(この時、使用素材を見ながら、シルエットの補正方法を学ぶ)			7.5時間
7	完成パターンが出来たら、工業用パターンを作成する(この時、素材の特質に合わせた縫い代付けをする)			7.5時間
8	重衣料の自由アイテムのオリジナルデザインのパターンを作成する			7.5時間
9	製図は、着心地を考慮して、尚且つ自分の求めるシルエットを素材の特質に合わせて形作って行く			7.5時間
10	完成したパターンが思い通りのシルエットになっているかトワルの作成をする			7.5時間
11	トワルの修正方法を学ぶ(この時、使用素材を見ながら、シルエットの補正方法を学ぶ)			5時間
12	完成パターンが出来たら、工業用パターンを作成する(この時、素材の特質に合わせた縫い代付けをする)			7.5時間
13	縫製工程を考えてみる(パターンの形に合わせて縫製工程も変わってくる事を知る)			5時間
14	素材の伸び・ほつれ・パッカリングやてかりなどを考えて縫い代幅が変わる事を覚える			5時間
15	トワルのプレゼンテーションをする			5時間
合計時数				95時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルデザインの重衣料の素材研究をしてからアレンジパターンを作成</li> <li>・様々なアイテム名及びディティール名の把握試験</li> <li>・素材研究・パターンアレンジをした作品の工業用パターンを完成させる。</li> </ul>				
評価方法・評価基準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験(筆記)1/3</li> <li>・作品、課題評価(作品の製図力、デザイン力・素材知識)1/3</li> <li>・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3</li> </ul>				
教科書・参考書・資料・文献				
池田学園教科書、日本ファッション教育振興協会、文化出版局の衿のデザイン・袖のデザイン				
担当教員の経歴・実務経歴		教員種別	科目所属科長	
文化服装学院卒、アパレル企業にてデザイナー&パタンナー職に就く。その後、専門学校で教職に45年以上従事している。		実務家教員 基幹教員	ファッション造形科 鷺典子	

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	3Dモデリング I	科目区分	職業専門科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	1単位	17回
設置学科・コース	ファッション造形科 デザイナーコース、パタンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	リビ 裕子	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
<p>CADは、Computer Aided Design の略で、コンピューターによる設計という意味です。よって、設計図作成の効率化や正確性の向上を目指し、殆どの企業で活用されています。授業では実践的なスキルを身につける為に、2Dから3Dの操作に繋げていき、立体映像を見ながらシルエットアレンジが出来るスキルを身に付けていきます。</p>				
到達目標・習得技術				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3Dモデリングで立体的なシルエットを確認しながら、パターン展開の扱いを把握する。</li> <li>。応用デザインの平面製図を学びながら、3Dでも高度なテクニックを身に付けるようになる。</li> </ul>				
授業方法・形態				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2Dや手引きで製図をしたものを正確にトレースをする訓練をしながら、短時間で修正するスキルを磨いていく。</li> <li>・そこから更に、各自オリジナルデザイン用のマニピュレーション技術を駆使して、高度なシルエットアレンジを行なっていく。</li> </ul>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	3Dモデリングはデジタル空間で立体映像が作られ、3次元の角度からシルエットチェックをする事を解説			2.5時間
2	更にそれを見ながら、パターンアレンジが出来る事を説明			2.5時間
3	有り型パターンを使用して経験を試みる			2.5時間
4	更にそのパターンをアレンジして、3D上での変化を楽しんでみる			2.5時間
5	実際には、CADで自分でパターンを作り完成パターン作成までをする事を知る			2.5時間
6	CAD以外の手引きパターン又はドレーピングしたパターンをスキャナーでトレースする方法を学ぶ			2.5時間
7	トレースした後のパターン修正のテクニックを学ぶ			2.5時間
8	完成パターンまでの修正・寸法チェックの仕方を覚える			2.5時間
9	3D操作のやり方をもう一度最初から通して行う			2.5時間
10	パターンの縫製工程を知らないと、3D操作ができないことを知る			2.5時間
11	正確な完成パターンと的確な縫製工程を操作してから3D映像に持って行く事が出来る			2.5時間
12	3D映像がチェック出来るようになったら、各自CAD上でパターンアレンジを行なって登録まで持って行く			5時間
13	オリジナルデザインの3D表現をバリエーションを組んで仕上げて行く			5時間
14	プレゼンテーションを行い各自研究内容を発表する			2.5時間
15	他の人のプレゼンテーションを聞き、色々なパターンアレンジの3D操作を知る事が出来る			2.5時間
合計時数				42.5時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題デザインの完成パターンと3D映像</li> <li>・課題パターンのアレンジ展開と3D映像提出</li> <li>・オリジナルデザインの完成パターンと3D映像</li> </ul>				
評価方法・評価基準				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験(筆記)1/3</li> <li>・作品、課題評価(作品の製図応用力、デザイン力)1/3</li> <li>・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3</li> </ul>				
教科書・参考書・資料・文献				
資料(ファッション雑誌モードエモードその他、各自選出ブランドの写真)、応用製図プリントテキスト、				
担当教員の経歴・実務経歴		教員種別	科目所属科長	
文化服装学院卒、アパレル企業にてデザイナー&パタンナー職に就く。その後、専門学校の教職に45年以上従事している。		実務家教員 基幹教員	ファッション造形科 鷺典子	

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	生産計画・仕様書Ⅰ	科目区分	職業専門科目	
履修期間	後期	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	1単位	16回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	専門課程	
教員	吉岡文子	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
商品企画から量産までの流れを理解し、仕様書作成や生産管理の基本能力養成を目的とする。 これにより、卒業後の就業に直結する実務的能力の獲得を目指す。				
到達目標・習得技術				
製作するアイテム別の生産計画を立て、スケジュールを組むことで納期についての意識付けができる。 縫製や生地・資材に関する情報を理解し仕様書に記載できる。 生地・副資材明細について、それぞれ単価を明確にし、商品原価の算出ができる。				
授業方法・形態				
講義(インタラクティブボード、iPadを使用) 各自の作品を企業製品に想定し、生産計画、縫製仕様書作成を行う(MacBook使用) グループワークとしてお互いの作品の採寸や検品を行い、仕様書に反映させる(MacBook使用)				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	「生産計画の概要」: 生産計画の必要性、専門用語など			1. 25時間
2	「生産計画書」: 生産計画書作成			1. 25時間
3	「縫製仕様書の概要」: 仕様書の役割、専門用語など			1. 25時間
4	「製品図」: 着丈、身巾のバランスやディテール表現復習と製品図作成			1. 25時間
5	「サイズ表」: 各部位のパターン採寸			1. 25時間
6	「縫製仕様書」: 仕様書作成1			1. 25時間
7	「サイズ表」: 製品の仕上がり採寸			1. 25時間
8	「縫製仕様書」: 仕様書作成2			1. 25時間
9	「縫製指示」: 縫い代の始末方法			1. 25時間
10	「縫製仕様書」: 仕様書作成3			1. 25時間
11	「生地・副資材の概要」: 副資材表の役割、専門用語など			1. 25時間
12	「生地・副資材」: 副資材表作成			1. 25時間
13	期末試験学習(復習と質問)			1. 25時間
14	期末試験学習(復習と質問)			1. 25時間
15	期末試験			2. 5時間
合計時数				20時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
第三者が理解できる生産計画書、見やすさと正確な指示が記載された縫製仕様書。 以上はポートフォリオとしても活用できるように資料化する。 仕様書作成に関する専門知識の習得と製品コストへの意識付け。□				
評価方法・評価基準				
課題(生産計画書の見やすさと正確さ、縫製仕様書の見やすさと正確さ、最終のコスト計算)1/3、筆記試験(実技試験)1/3、日常点1/3 出席率が一定以下(1/3以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり				
教科書・参考書・資料・文献				
オリジナルプリント、パワーポイント資料				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
国内アパレルブランドのデザイナー職、MD職			実務家教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	卒ショー企画	科目区分	総合科目	
履修期間	前期	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	15回
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	専門課程・応用過程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師	鷺典子、花園和年	
授業の概要(科目のねらい)				
<p>学部の枠を超えて履修する学生が、それぞれの専門性を活かしながら卒業制作作品を制作し、最終的にショー形式の作品として発表することを目的とする。</p> <p>ショー全体のデザインテーマを設定し、その枠組みや制作条件を議論・共有、ファッションデザインのジャンル分類、作品のグルーピング、デザインコンセプト形成の理論を学びながら、個々の制作テーマを明確化する。</p> <p>最終的には全体を統合した一つのプレゼンテーションへと構築する。個別制作と協働的プロジェクト運営の両立を学ぶ実践的演習科目である。</p>				
到達目標・習得技術				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ファッションデザインの主要ジャンルおよびその背景や理論的分類を理解</li> <li>2.自身の卒業制作におけるデザインテーマを論理的に構築・説明</li> <li>3.制作条件を踏まえた実現可能な作品構想の立案力</li> <li>4.個別作品を全体ショー構成の中での位置づけ、協働的プロジェクトの参加スキルと個々のプレゼンテーション力を構築</li> </ol>				
授業方法・形態				
<p>ディスカッション、リサーチ、プレゼンテーション、講評を組み合わせた演習形式。</p> <p>多くを課外時間を使って学生各自の考えや創作意図を生み出し、対面授業時間内では対話的・参加型授業とし、学生同士の自立した意見交換を重視するインディペンデント・スタディ&amp;ディスカッション</p>				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	「目的と全体像の共有」:			2.5時間
2	「制作条件・制作規定の共有および合意形成を目的とする討議」:希望の聞き取り、改善プロセス			2.5時間
3	「ショーカテゴリーの検討」:デザインの系譜、ジャンル分類の理解			2.5時間
4	「作品案構築理論」:テーマ、コンセプトメイキング			2.5時間
5	「共通条件討議」:制作上の共通条件(素材、点数、サイズ、表現形式、モデル、制作期間など)の検討			2.5時間
6	「個人テーマの設定とカテゴリーグループ内ディスカッション」:			2.5時間
7	「制作作品リサーチ」:ビジュアル資料・参考作品分析			2.5時間
8	「構想の具体化」:視覚資料・素材・制作計画(個人作品企画デザインボード)			2.5時間
9	「グループディスカッション」:個人作品構想をもとにしたディスカッション			2.5時間
10	「グループプレゼンテーション」:グループによるミニテーマ、作品方向性のプレゼンテーション			2.5時間
11	「再検討と全体構成の調整」:グループテーマ、個別デザインの再考察			5時間
12	「最終プレゼンテーション準備①」:造形デザインのメッセージ、ビジュアルの作成			5時間
13	「最終プレゼンテーション準備②」:各グループプレゼンツール、ビジュアルの作成			5時間
14	「最終プレゼンテーション」			2.5時間
15	「総括」:ショー作品の企画内容に関するペーパーテスト			2.5時間
合計時数				45時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
ポートフォリオ(デザイン思考プロセス記録)、プレゼンツール(ファッションショー作品分析作品)、筆記試験				
評価方法・評価基準				
<p>課題(論理的コンセプト説明、デザイン意図、課題全体像、プレゼン力、作品表現の豊かさ):1/3、テスト結果:1/3、日常点:1/3</p> <p>出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり</p>				
教科書・参考書・資料・文献				
<p>ファッションデザイン史、デザイン理論、現代ファッション研究に関する文献をオリジナル教本として提示する。</p> <p>授業内で随時提示する。</p>				
担当教員の経歴・実務経歴		教員種別	科目所属科長	
国内外ブランドでのデザイナー職		基幹教員 実務家	ファッション造形科 鷺典子	

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	卒業作品	科目区分	総合科目
履修期間	特別講座	履修要件	あり
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	3単位
設置学科・コース	ファッション造形科	対象課程	専門課程
教員	石川和男	授業担当・外部講師	鷺典子、花園和年

授業の概要(科目のねらい)

学修成果の集大成として、各自が設定したテーマに基づきファッション作品を制作する課外科目である。企画立案、リサーチ、コンセプト構築、デザイン展開、パターン制作、縫製、フィッティング、ビジュアル表現、展示構成までを一貫して行い、最終的に卒業制作展にて発表する。主体的な制作活動を通して、専門的技術力、企画力、表現力、問題解決力を総合的に養う。

到達目標・習得技術

独自の視点に基づいた明確なコンセプトの構築、デザインへ論理的に展開。  
高度なパターン・縫製技術を用いた制作とプレゼンテーション。  
総合的な作品発表

授業方法・形態

時間外活動を中心とする卒業制作科目であり、総学修時間225時間のうち大部分を学生の自主制作活動に充てるが、教員は後期期間を通して制作計画確認、複数回の中間講評および最終講評を通して指導を行い、制作の質的向上をはかり、製作仕上げに関しては約1週間の集中製作期間をシステムを用いる。  
学生は事前に科目「卒ショー企画」内で策定された作品デザインのアウトラインに基づき、自律的に制作活動を行う。

項目	授業計画・内容	課外時数
1	「制作計画提出」:制作管理スケジュール案の提出	11時間
2	「コンセプト再定義面談」:中間チェックとフィードバックの受容	11時間
3	「概念構造の確認」:デザインの再検討(ビルドアンドクラッシュ)	11時間
4	「素材・技術計画確認」:使用素材・テクニックの検討	11時間
5	「素材検証」:サンプル提示、素材の表現、意味性とデザインの適合検証	11時間
6	「試作工程」:計画と実作の差異を記録し、造形意図とのズレを検証	11時間
7	「検証と試作」:素材、技術サンプル制作による触覚・視覚的検証	11時間
8	「方向性の確認」:作品衣服としての形状、表現意図の再確認	11時間
9	「再構築計画」:試作フィードバック反映(対面指導5時間を含む))	5時間
10	「制作工程①」:創造性、技術的可能性の整合と表現意図の整合性確認	11時間
11	「制作工程②」:表現技術の有効性、反復性、継続性(対面指導5時間を含む))	5時間
12	「制作工程③」:造形の精度向上(対面指導5時間を含む))	5時間
13	「最終制作工程確認」:仕上げまとめ(対面指導5時間を含む))	5時間
14	「制作記録」:作品仕様書作成	11時間
15	「教員・外部講師からの総合批評」(対面指導5時間を含む))	5時間
時間外授業合計時数		110時間

終了成果物・修了試験・修了課題

最終成果物、中間成果物、制作プロセス記録  
卒業・終了作品

評価方法・評価基準

作品完成度(構造・素材・仕上げ・創造性・独自性・素材・技術選択の妥当性、表現深化の度合い)  
プレゼンテーションにおける論理性

教科書・参考書・資料・文献

適宜資料配布

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
国内外ブランドでのデザイナー職	基幹教員 実務家	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	修了作品	科目区分	総合科目	
履修期間	特別講座	履修要件	あり	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	3単位	
設置学科・コース	ファッション造形科・専攻科	対象課程	基礎課程・応用課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師	鷺典子、花園和年、中島由紀子	

授業の概要(科目のねらい)

基礎課程、応用過程の修了成果として、各自が設定したテーマに基づきファッション作品を制作する課外科目である。企画立案、リサーチ、コンセプト構築、デザイン展開、パターン制作、縫製、フィッティング、ビジュアル表現、展示構成までを一貫して行い、最終的に基礎課程ショー、修了製作ショーにて発表する。  
主体的な制作活動を通して、専門的技術力、企画力、表現力、問題解決力を総合的に養う。

到達目標・習得技術

独自の視点に基づいた明確なコンセプトの構築、デザインへ論理的に展開。  
高度なパターン・縫製技術を用いた制作とプレゼンテーション。  
総合的な作品発表

授業方法・形態

時間外活動を中心とする卒業制作科目であり、総学修時間225時間のうち大部分を学生の自主制作活動に充てるが、教員は後期期間を通して制作計画確認、複数回の中間講評および最終講評を通して指導を行い、制作の質的向上をはかり、製作仕上げに関しては約1週間の集中製作期間をシステムを用いる。  
学生は事前に科目「卒ショー企画」内で策定された作品デザインのアウトラインに基づき、自律的に制作活動を行う。

項目	授業計画・内容	課外時数
1	「制作計画提出」:制作管理スケジュール案の提出	10時間
2	「コンセプト再定義面談」:中間チェックとフィードバックの受容	14時間
3	「概念構造の確認」:デザインの再検討(ビルドアンドクラッシュ)	16時間
4	「素材・技術計画確認」:使用素材・テクニックの検討	15時間
5	「素材検証」:サンプル提示、素材の表現、意味性とデザインの適合検証	18時間
6	「試作工程」:計画と実作の差異を記録し、造形意図とのズレを検証	18時間
7	「検証と試作」:素材、技術サンプル制作による触覚・視覚的検証	20時間
8	「方向性の確認」:作品衣服としての形状、表現意図の再確認	14時間
9	「再構築計画」:試作フィードバック反映(対面指導5時間を含む))	12時間
10	「制作工程①」:創造性、技術的可能性の整合と表現意図の整合性確認	22時間
11	「制作工程②」:表現技術の有効性、反復性、継続性(対面指導5時間を含む))	24時間
12	「制作工程③」:造形の精度向上(対面指導5時間を含む))	24時間
13	「最終制作工程確認」:仕上げまとめ(対面指導5時間を含む))	12時間
14	「制作記録」:作品仕様書作成	8時間
15	「教員・外部講評者からの総合批評」(対面指導5時間を含む))	8時間
合計時数		225時間

終了成果物・修了試験・修了課題

最終成果物、中間成果物、制作プロセス記録  
卒業・終了作品

評価方法・評価基準

作品完成度(構造・素材・仕上げ・創造性・独自性・素材・技術選択の妥当性、表現深化の度合い)  
プレゼンテーションにおける論理性

教科書・参考書・資料・文献

適宜資料配布

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
国内外ブランドでのデザイナー職	基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	企業連携講座 I	科目区分	総合科目	
履修期間	前期	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	16回
設置学科・コース	ファッション造形科 デザイナーコース・パタンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	花園 和年	授業担当・外部講師	なし	
授業の概要(科目のねらい)				
<p>企業との連携により、実際の就業現場で求められる経験、知識、およびトレンドとなっている最新技術の習得          学生ならではの柔軟な発想を企業にフィードバック、情報共有し、SDGsをはじめとする現代のファッション産業を取り巻く諸問題に対して共同、連携して          解決策を模索する。</p>				
到達目標・習得技術				
<p>1、生地ができるまでの、過程、手法、生産条件、等、生産の特性に対する理解を深め、ファッション産業におけるSDGsへの理解を深める。          2、企業研究、店頭見学、市場リサーチを通じ、実際に顧客から求められている商品、評価が高い商品の把握と今後の予測。          3、作品制作を通じ、制作デザイン、技術の向上だけでなく、自分の作りたいものより、あくまでも顧客の要望に沿うもの、顧客を想定したものづくりを学ぶ。</p>				
授業方法・形態				
講義＋課題作品作成				
項目	授業計画・内容			授業時数
1	オリエンテーション(企業連携講座とは 今後の予定 連携企業紹介			2.5時間
2	生地ができるまでの解説 生地生産のメカニズム 生地ロス発生のメカニズム			2.5時間
3	内田染工場見学 染色の現場を体験することにより生地のできるまでを学ぶ			2.5時間
4	連携企業講義①:企業紹介、ブランド紹介、目標設定			2.5時間
5	店頭見学 市場リサーチ			2.5時間
6	グループ討論、発表、レポート作成 作品アイデア決定			5時間
7	作品絵型、パターン作成			2.5時間
8	連携企業講義:(2回目) 作品テーマ、絵型チェック、アドバイス			2.5時間
9	ブランドコンセプト、顧客層を意識したものづくり 統一感を持たせた素材決定			2.5時間
10	チームでの進捗状況チェック、制作進行			2.5時間
11	縫製仕上がり確認、評価後進行			2.5時間
12	連携企業作品中間チェック、アドバイス 企業担当登壇(3回目)			2.5時間
13	作品仕上げ、レポート作成			2.5時間
14	期末試験			2.5時間
15	試験内容解説、作品順位発表			2.5時間
合計時数				40時間
終了成果物・修了試験・修了課題				
修了試験(生地生産工程、SDGs、店頭リサーチ) 店頭レポート 企業よりの提供生地を使用しての作品制作				
評価方法・評価基準				
<p>日常点(授業参加、態度、出席率)1/3 レポート+作品の平均評価1/3、修了試験1/3          出席率一定以下(3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり</p>				
教科書・参考書・資料・文献				
<p>担当教員による用意、連携企業、内田染工場よりの提供資料活用          「服地の基本がわかるテキスタイル辞典」関正雄</p>				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
<p>明治大学卒          テキスタイル企画、MD12年(ニット、合織、プリント) 海外製品バイヤー20年</p>			実務家教員 基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	企業連携講座Ⅱ	科目区分	総合科目	
履修期間	後期	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	2単位	16回
設置学科・コース	ファッション造形科 デザイナーコース・パタンナーコース	対象課程	専門課程	
教員	花園 和年	授業担当・外部講師	なし	

授業の概要(科目のねらい)

企業との連携により、実際の就業現場で求められる経験、知識、およびトレンドとなっている最新技術の習得  
学生ならではの柔軟な発想を企業にフィードバック、情報共有し、SDGsをはじめとする現代のファッション産業を取り巻く諸問題に対して共同、連携して  
解決策を模索する。

到達目標・習得技術

- 1、最新CAD、3Dモデリングシステム、等最新の技術の講義、体験を通じて最新技術への理解を深める。
- 2、連携企業のブランドコンセプト、設営売り場の見学、店頭リサーチから顧客層を想定し、制作物のコンセプト付け、デザイン実施
- 3、実際のものづくりに必要な材料選定、コスト意識を身に付け、それを元に作品制作

授業方法・形態

講義＋課題作品作成

項目	授業計画・内容	授業時数
1	ユカ&アルファ 講義 3Dモデリング講義、体験	2.5時間
2	3Dモデリングに関する調査、レポート作成	2.5時間
3	連携企業講義 百貨店にて売り場を展開するために必要なデザイナーに求められる諸要件の学習	2.5時間
4	Parc1店頭リサーチ 市場調査 顧客ニーズの把握	2.5時間
5	百貨店フロア内でのショップ起業を想定した商品コンセプト作成	5時間
6	ショップマップ作製 1点のデザインだけでなくショップ構成に必要な面としてのデザインをチームで作成	2.5時間
7	作品絵型、パターン作成	2.5時間
8	連携企業講義:(2回目) デザイン画チェック チーム毎のプレゼンテーション	2.5時間
9	チームとしてアイテム割、コンセプトマップ落とし込み	2.5時間
10	素材、色・柄・デザインにチーム統一感を持たせ、制作実施	2.5時間
11	各アイテム進捗状況確認 チーム作業進行	2.5時間
12	連携企業作品中間チェック、アドバイス (3回目)	2.5時間
13	作品仕上げ、レポート作成	2.5時間
14	期末試験	2.5時間
15	試験内容解説、作品順位発表	2.5時間
合計時数		40時間

終了成果物・修了試験・修了課題

修了試験(3Dモデリング、SDGs、店頭リサーチ) 店頭レポート 起業売り場のコンセプト、商品、レイアウト等を考慮しての作品制作

評価方法・評価基準

日常点(授業参加、態度、出席率)1/3 レポート+作品の平均評価1/3、修了試験1/3  
出席率一定以下(3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり

教科書・参考書・資料・文献

担当教員による用意、Parc1,ユカ&アルファよりの提供資料活用  
「誰がアパレルを殺すのか」杉原淳一/染原陸美著 「全国百貨店の店舗戦略:新たな競争と成長の構図」大原茜/浅倉祐輔著

担当教員の経歴・実務経歴	教員種別	科目所属科長
明治大学卒 テキスタイル企画、MD12年(ニット、合織、プリント) 海外製品バイヤー20年	実務家教員 基幹教員	ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	臨地学習・見学	科目区分	総合科目
履修期間	特別講座	履修要件	なし
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	1単位
設置学科・コース	ファッション総合科・造形科	対象課程	基礎課程
教員	石川和男	授業担当・外部講師	学科教員
授業の概要(科目のねらい)			
<p>基礎課程において、芸術、文化、ファッション業界の理解や知見を深めるべく、展覧会、舞台芸術、物流センター、生産工場など、クリエイティブから生産・配送までの全工程を体験的に把握する機会として設定。事前には関係する授業や連携する授業内において対面レクチャなども含め、授業内容に肉付けを図る目的を持つ。ものづくりへの理解と技術的視点の強化。(工場・ワークショップ参加を通じ、素材、加工、工程管理などの実務を知る) 文化的背景と表現の関係を学ぶ。</p>			
到達目標・習得技術			
<p>現場見学を通じて、ファッション製品が企画から消費者へ届くまでの流れの把握 展覧会や舞台など文化芸術体験から得られた表現要素を自身の創作に応用 物流・生産現場の課題、強み、技術的ポイントを理解 現地現場ワークショップにおいては、実務体験をととして職業意識の向上を図る。</p>			
授業方法・形態			
<p>本授業は明確な時間割を設けず、特別授業として実施する。また事前・事後の学修は、関連科目内および課外学修として進める。 内容としては相手先施設において、それぞれの学芸員や職能者による説明、レクチャーを受ける(現地現場において実務をもととしたワークショップ)</p>			
項目	授業計画・内容	課外時数	
1	実社会に触れることの意味を理解し、「見る・感じる」体験を学修として扱う姿勢の形成	3時間	
2	学修テーマの再確認 (現在の関心や問題意識を明確化)	3時間	
3	事前研究 (疑問や問いを持って現場に向かう準備)	3時間	
4	実社会との接続① (ファッション産業の現実に触れる)	3時間	
5	実社会との接続② (アート・文化としてのファッション体験)	3時間	
6	事前のイメージと実際の現場との差異の整理	3時間	
7	役割・立場の多様性理解 (例として、現場で働く職能者技術の多様性)	3時間	
8	学修との照合 (臨地体験を通して検証)	3時間	
9	知識の再解釈 (臨地体験を通して自己の学習目標再構築)	3時間	
10	「見る目」の変化	3時間	
11	知見領域の変化、拡張	3時間	
12	今後の学修への設定 (取り組むべき課題やテーマ)	3時間	
13	振り返り、学修として統合	3時間	
14	学修レポート作成	3時間	
15	学修確立	3時間	
時間外授業合計時数			45時間
終了成果物・修了試験・修了課題			
<p>施設・企業からの配布資料、ワークシート 学修レポート</p>			
評価方法・評価基準			
<p>参加姿勢、事前学習ノート:1/3 学修レポート:1/3 参加姿勢:1/3</p>			
教科書・参考書・資料・文献			
<p>展覧会パンフレット 企画展資料本 企業パンフレットなど</p>			
担当教員の経歴・実務経歴		教員種別	科目所属科長
			ファッション総合科 ファッション造形科

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	職業人基礎力と協働演習	科目区分	総合科目	
履修期間	集中講座(在学期間)	履修要件	なし	
必修・選択	必修	単位数・回(実日程)	1単位	1～4回
設置学科・コース	全学科	対象課程	全課程	
教員	石川和男	授業担当・外部講師		
授業の概要(科目のねらい)				
<p>ファッション産業の実務現場の理解。(展覧会、舞台芸術、物流センター、生産工場など、クリエイティブから生産・配送までの全工程を体験的に把握)ものづくりへの理解と技術的視点の強化。(工場・ワークショップ参加を通じ、素材、加工、工程管理などの実務を知る)文化的背景と表現の関係を学ぶ。</p>				
到達目標・習得技術				
<p>課題解決型学習(PBL)やサービスラーニングの手法を用い、学内での協働活動を通して、社会で求められる職業人基礎力を身につけることを目的とする。 履修者は在学期間を通じて以下を達成することを目標とする。 ・周囲と協働し、役割を理解して与えられた業務を責任をもって継続的に遂行できる ・社会貢献や組織運営への参画意識を身につける</p>				
授業方法・形態				
<p>日常的な学内活動(週番作業、大掃除、行事運営補助等)をPBL課題として位置づけ、サービスラーニングとして評価・単位認定を行う実践型科目である。 学生は在学期間を通して、計画・実行・振り返り(PDCA)を繰り返しながら、協働力・責任感・主体性を養う。 在学期間を通じて継続的に実施する実践型科目であり、上記15回の授業計画は学修プロセスを示したものである。</p>				
項目	授業計画・内容			課外時数
1	授業の目的、評価方法、履修上の注意の理解。社会人基礎力の解説(前に踏み出す力/考え抜く力/チームで働く力)			3時間
2	学内活動の意義と社会的役割の理解			3時間
3	協働活動の基礎(週番作業実践)			3時間
4	協働活動における課題認識(作業効率や環境改善に関する気づきの共有)			3時間
5	作業の実践(協働行動の定着)			3時間
6	協働作業の課題発見と改善検討			3時間
7	計画的な協働活動の実践(協力して目標を達成す経験の蓄積)			3時間
8	大掃除等のプロジェクト計画立案(集団内の役割について)			3時間
9	協働活動の実践と調整			3時間
10	社会人基礎力の自己評価(中間成果確認)			3時間
11	サービスラーニングとしての位置づけ理解(学内活動が組織や他者に与える影響の理解)			3時間
12	主体的行動の実践と原理			3時間
13	リーダーシップの実践実習			3時間
14	調整役・まとめ役の経験			3時間
15	学修成果の確認			3時間
合計時数				45時間(対面1時間)
終了成果物・修了試験・修了課題				
活動記録(週番作業・協働活動)				
評価方法・評価基準				
活動実績(活動記録)・行動観察評価:100%				
教科書・参考書・資料・文献				
『社会人基礎力育成の手引き』経済産業省				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
				ファッション造形科 鷺典子

ファッション造形科パタンナーコースシラバス

授業科目名	海外研修	科目区分	総合科目	
履修期間	集中講座7日間(年度により異なる)	履修要件	参加費自己負担・最少催行人数あり	
必修・選択	選択	単位数・回	1単位	
設置学科・コース	全学科	対象課程	全課程	
教員	石川誠	授業担当・外部講師	添乗員・現地職能スタッフ	
授業の概要(科目のねらい)				
<p>現地のアパレルブランド、デザインスタジオ、プレスルームを訪問し、国際的なグローバル視点でファッション産業の構造を学ぶ。デザインリサーチ能力や創作力を高めることを目的に現地クリエイターやプレス担当者との交流を通じ、基本的な業界英語(または現地語)に触れて、国際コミュニケーション能力の強化。文化施設、美術館などを巡り、デザインソースやトレンドの背景を理解し、自己の創作活動への応用とする。</p>				
到達目標・習得技術				
<p>世界のファッションブランドのデザイン工程・広報戦略を理解。                  現地文化の観察を通して、新たなデザインソースを抽出。                  自身のクリエイションに研修で得たインスピレーションを活用できる。                  研修内容を整理し、レポート・プレゼンテーションとしてまとめられる。</p>				
授業方法・形態				
<p>デモンストレーションからの実習を中心。                  プレゼンテーションにおいては、学生同士の相互講評、評価を取り入れる。</p>				
項目	授業計画・内容			課外時数
1	ファッションに関する国際感覚の基礎理解の形成			2時間
2	ファッション都市の業界構造理解(産業構造、メゾン、アトリエ、職人、教育機関の関係性)知見の蓄積			2時間
3	専門領域の焦点化①(世界的メゾン・ブランド研究)知見の蓄積			2時間
4	専門領域の焦点化②(各自の専門性と結びつけて観察できる領域視点作り)			2時間
5	個人テーマ、フィールドワーク設計(経験準備・主体的な問いの設定)			2時間
6	出発前レクチャー(現地最新ニュース、、交通・安全レクチャー)			2時間
7	出発・現地到着(現地ガイダンス/異文化コミュニケーション)			2時間
8	デザインスタジオ訪問(有名ブランド、または新鋭ブランドのデザインスタジオ見学、ワークショップ)			5時間
9	プレスルーム・ショールーム・展示会訪問(コレクション見学、ブランドイメージ構築の手法のワークショップ)			5時間
10	文化施設・美術館の見学「ファッション、アート、歴史資料の観察」(例:ルーヴル、V&A、MoMA など)			5時間
11	実践的体験・フィールドワーク(理論と事前理解の現場検証)			5時間
12	経験の再構築「研修内容の資料整理、研修前後比較・分析による考察			3時間
13	成果物制作(視覚的・論理的表現の検討)			3時間
14	研修を「一過性」としない学習の展開(学修成果の発信)			3時間
15	成果総括(今後の学修・制作への活用、キャリアへの活用計画)			3時間
時間外授業合計時数				46 + α (準備時間)
終了成果物・修了試験・修了課題				
代理店からの配布資料(デジタル) 現地ワークシート				
評価方法・評価基準				
参加姿勢、提出物、記録ノート:50% 終了レポート:50%				
教科書・参考書・資料・文献				
各国ファッション協会発行メディア(Première Visionなど) 代理店からの訪問先資料				
担当教員の経歴・実務経歴			教員種別	科目所属科長
				ファッション造形科 鷺典子